

## 6.7 動物

本事業では、工事の実施に伴う造成等の施工による一時的な動物への影響、施設の存在による動物への影響が想定されることから、動物に係る調査、予測及び評価を実施した。

### 6.7.1 現況調査

既存資料の収集・整理を行うとともに、新施設整備予定区域及びその周辺の動物の生息状況を把握し、影響を受けるおそれのある動物の分布状況等を把握するため、現地調査を実施した。

調査内容・方法等の概要を以下に示す。

#### (1) 調査すべき情報

調査すべき情報を表 6.7.1-1 に示す。

表 6.7.1-1 調査すべき情報

影響要因	調査すべき情報
造成等の施工による一時的な影響	1) 哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、陸産貝類、魚類、底生動物の生息種、生息状況 2) 重要な種及び個体群（以下「重要な種等」という。）の生息・分布状況及び生息環境の状況
施設の存在	1) 哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、陸産貝類、魚類、底生動物の生息種、生息状況 2) 重要な種及び個体群等の生息・分布状況及び生息環境の状況

#### (2) 調査の基本的な手法

1) 哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、陸産貝類、魚類、底生動物の生息種、生息状況

現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。各調査項目の調査手法を表6.7.1-2～表6.7.1-10に示す。

##### ① 哺乳類の生息種、生息状況

表 6.7.1-2(1) 調査手法（哺乳類の生息種、生息状況）

調査項目	調査手法
現地調査	<p>[任意確認法] 周辺地形及び植生等の条件を勘案して、各環境を網羅するように踏査し、個体の目撃及び鳴き声や糞、足跡、巣等のフィールドサインの確認により生息している哺乳類を確認した。 秋季・春季・夏季にはバットディテクター（コウモリの出す超音波を人間の可聴音に変換する装置）を用いてコウモリ類の夜間調査を行った。</p> <p>バットディテクターの規格]: Wildlife Acoustics, Inc. 製バットディテクター Echo Meter Touch 2 Pro (周波数域 : 0kHz～192kHz)</p> <p>[トラップ法] 生け捕り罠（シャーマントラップ）を用いた捕獲調査を行った。トラップは谷戸、雑木林及び耕作地の各環境にそれぞれ 20 個設置し、1 晩置いたのち回収した。捕獲した個体は同定・計測の上、放逐した。付け餌としてピーナッツとひまわりの種を用いた。</p> <p>シャーマントラップの規格]: 22.8(L)cm×8.9(H)cm×7.6(W)cm、アルミ製</p>

**表 6.7.1-2(2) 調査手法（哺乳類の生息種、生息状況）**

調査項目	調査手法
現地調査	<p>[自動撮影法] 赤外線センサー付き自動撮影カメラを設置し、カメラの前を通過する哺乳類の撮影を行った。カメラは谷戸、雑木林及び耕作地の各環境にそれぞれ2個設置し、各季節10日程度置いていたのち撮影データを分析した。</p> <p>自動撮影カメラの規格: Browning社製トレイルカメラ（センサー反応距離: 24m）</p>

### ② 鳥類（一般鳥類）の生息種、生息状況

**表 6.7.1-3 調査手法（鳥類（一般鳥類）の生息種、生息状況）**

調査項目	調査手法
現地調査	<p>[任意観察法] 現地を任意に踏査し、ルートセンサス法及び定点調査法で確認されなかった種の記録、重要種の生息状況の詳細把握を行った。調査には双眼鏡（8~10倍）を用いた。 冬季・春季・初夏季には、夜間にフクロウ類等の夜行性鳥類の生息状況の補足調査を行った。生息が推測される種の声が確認されない場合には、コールバック法（鳥類のなわばり習性を利用し、各種の鳴き声をスピーカーで再生し、対象種の反応（囁き、接近）の有無を確認）を行い生息の有無を判断した。コールバック法の対象種はフクロウ、アオバズク、ミソゴイとした。</p> <p>[定点観察法] 整備予定区域及び耕作地、人工改変地の各環境に設定した調査定点より30分間観察し、出現した鳥類を記録した。調査時間帯は鳥類の活動が盛んな早朝の時間帯に行った。調査には望遠鏡（20~60倍）及び双眼鏡（8~10倍）を用いた。</p> <p>[ラインセンサス法] 周辺地形及び植生等の条件を勘案して、各環境を網羅するように、あらかじめ設定したルートを一定速度（時速2km程度）で歩きながら一定範囲（25m）内に出現した鳥類を記録した。調査時間帯は鳥類の活動が盛んな早朝の時間帯に行った。調査には双眼鏡（8~10倍）を用いた。</p>

### ③ 鳥類（猛禽類）の生息種、生息状況

**表 6.7.1-4 調査手法（鳥類（猛禽類）の生息種、生息状況）**

調査項目	調査手法
現地調査	<p>[定点観察法] 調査対象範囲を広域に見渡す調査定点（3地点程度）より望遠鏡（20~60倍）及び双眼鏡（8~10倍）を用いて観察し、出現する猛禽類（タカ目、ハヤブサ目）の生息種及び繁殖状況を把握した。猛禽類の飛翔が確認された場合は、種名や成熟度、性別等を可能な限り把握し、個体識別に努めた。ディスプレイライトや巣材や餌の運搬等繁殖の兆候となる行動を記録するとともに、消失位置から営巣位置の特定につながる情報を収集した。</p> <p>調査員どうしは無線機で通信し複数の調査員で確認することにより、可能な限り個体を追跡した。調査定点は猛禽類の確認位置や日照方向に応じて適宜移動させた。</p> <p>調査は猛禽類の繁殖期に毎月3日間、各日8時間程度実施した。</p> <p>[営巣林踏査] 調査範囲において猛禽類の繁殖可能性があると判断された場合には、必要に応じて、林内踏査により営巣地の特定に努めた。営巣地が確認された場合は、位置情報をGPSで取得するとともに、営巣樹種・周辺植生・営巣木樹高・営巣高・雛の数や生育状況等の情報について可能な限り確認した。</p>

#### ④ 両生類・爬虫類の生息種、生息状況

**表 6.7.1-5 調査手法（両生類・爬虫類の生息種、生息状況）**

調査項目	調査手法
現地調査	<p>周辺地形及び植生等の条件を勘案して、各環境を網羅するように踏査し、出現する両生類・爬虫類を確認した。特に水域で繁殖する両生類については、可能な限り繁殖期に調査を実施し、繁殖水域の把握に努めた。また、他項目調査時に確認した記録も本調査結果に含めた。</p> <p>早春季・春季・初夏季には、夜間に鳴き声による確認を行った。</p>

#### ⑤ 昆虫類の生息種、生息状況

**表 6.7.1-6 調査手法（昆虫類の生息種、生息状況）**

調査項目	調査手法
現地調査	<p>[任意採集法]</p> <p>周辺地形及び植生等の条件を勘案して、各環境を網羅するように踏査し、飛翔昆虫の目視、鳴き声、石起こし、草地でのスイーピング、樹林でのビーティング、訪花昆虫の観察、生息する昆虫類を把握した。採集した昆虫は、標本を持ち帰り室内分析により同定した。</p> <p><b>スイーピング</b>: 捕虫網を水平に振って草本上や花上の昆虫をすくい採る方法。</p> <p><b>ビーティング</b>: 樹上等の昆虫を叩き棒で叩き落し、下に落ちた昆虫をネットで受け取って採集する方法。</p> <p><b>石おこし</b>: 石や倒木を起こして、下に潜る昆虫を採集する、あるいは倒木や落葉の中から探し出す方法。</p> <p>[ライトトラップ法]</p> <p>夜行性昆虫（ガ類・甲虫類・カゲロウ類等）を採集するため、昆虫が光に集まる習性を利用したライトトラップ（ボックス法）による調査を実施した。現地で確認した環境要素における代表的な場所ごとに2か所を対象にトラップを日没前に設置し、翌朝に回収した。採集した昆虫類等は、持ち帰り、室内にて同定を行った。</p> <p><b>ライトトラップ（ボックス法）</b>: 夜間に光源（紫外線 LED ライト 3 灯:375nm）を点灯し、集まった昆虫を光源下に設置したボックス内にロートで落下させるトラップ。</p> <p>[ベイトトラップ法]</p> <p>地表徘徊性昆虫類（オサムシ・ゴミムシ類、アリ類等）の生息状況を確認するため、誘引餌（ベイト）を用いたトラップによる調査を実施した。現地で確認した環境要素における代表的な 3 つの環境ごとに 20 個ずつ、計 60 個のトラップを日没前に設置し、翌朝に回収した。採集した昆虫類等は、持ち帰り、室内にて同定を行った。</p> <p><b>ベイトトラップ</b>: 誘引餌(生なまぎ及び乳酸発酵飲料)を入れた市販のプラスチックカップを、口が地表面と同じになるように埋設して、餌に誘引されカップに落下した昆虫類を捕獲するトラップ。</p>

#### ⑥ 昆虫類（ゲンジボタル）の生息種、生息状況

**表 6.7.1-7 調査手法（昆虫類（ゲンジボタル）の生息種、生息状況）**

調査項目	調査手法
現地調査	ゲンジボタルの繁殖期に、新施設整備予定区域からの濁水が流入する可能性のある沢及び流入先の河川（竹本川）沿いを夜間に踏査し、発光するゲンジボタルの成虫の確認地点及び個体数を記録した。

⑦ 陸産貝類の生息種、生息状況

**表 6.7.1-8 調査手法（陸産貝類の生息種、生息状況）**

調査項目	調査手法
現地調査	樹林環境、耕作地及び休耕田、河川敷の各環境を網羅するように踏査し、石下や植物の陰に潜む大型の陸産貝類（カタツムリ、ナメクジ等）を捕獲した。微小種については、標本を持ち帰り室内分析により同定を行った。

⑧ 魚類の生息種、生息状況

**表 6.7.1-9 調査手法（魚類の生息種、生息状況）**

調査項目	調査手法
現地調査	タモ網、かご罠等を用いた捕獲調査及び目視観察により生息している魚類を把握した。また、目視により確実に同定できた個体も記録した。採集した魚類は、種名、確認個体数を記録した。 かご罠：誘引餌(ねり餌)を入れた 24cm×24cm×37cm 程度の網目 3mm (ポリエチレン製) のかごで、入口がロート状になっており、かご内に入った魚類が脱出しにくい形状となっている。魚類の潜みやすい箇所の水中に 1 時間程度設置後、回収した。

⑨ 底生動物の生息種、生息状況

**表 6.7.1-10 調査手法（底生動物の生息種、生息状況）**

調査項目	調査手法
現地調査	調査対象河川及び池において、様々な環境を網羅するようにタモ網を用いて底生動物を採集した。採集した底生動物は、現地で同定可能な大型の種を除き、持ち帰り、室内にて同定を行った。

2) 重要な種等の生息・分布状況及び生息環境の状況

調査手法を表6.7.1-11に示す。

**表 6.7.1-11 調査手法（重要な種等の生息・分布状況及び生息環境の状況）**

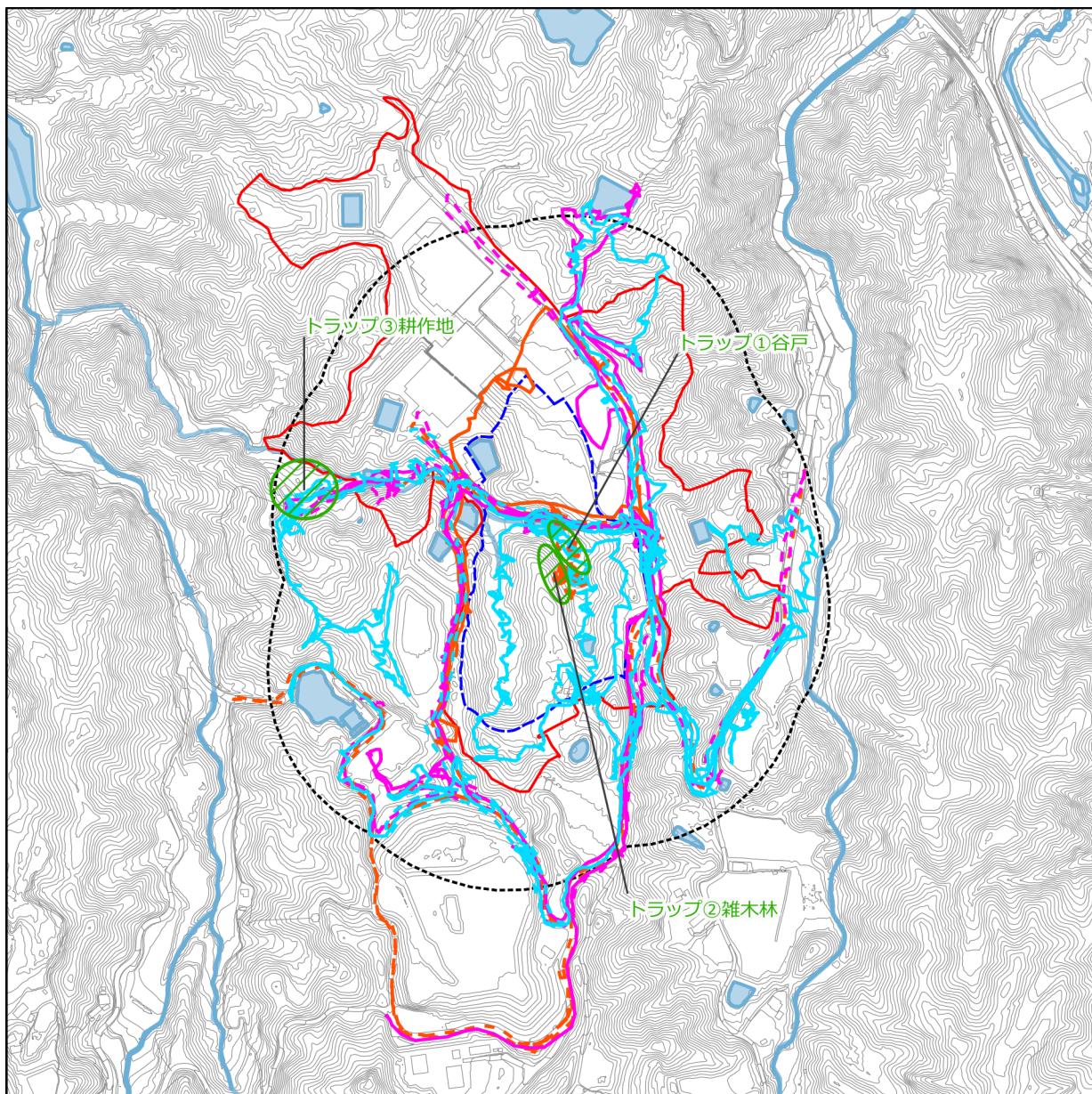
調査項目	調査手法
現地調査	上記 1) に示す現地調査で確認された重要な種等について、以下の①～③について可能な限り把握した。 ①分布位置・分布範囲 ②個体数・確認地点の利用状況（繁殖・餌場・一時通過等） ③生息環境の状況（面積・植生・水深・日当り等）

### (3) 調査地域及び調査地点

調査地域は、対象事業の実施により、動物への影響が想定される範囲を含む地域とし、調査地点を表 6.7.1-12及び図 6.7.1-1に示す。

**表 6.7.1-12 調査地域及び調査地点**

項目	調査地域	調査地点
①哺乳類	新施設整備予定区域及びその周辺 200m	トラップ調査地点は、谷戸、雑木林及び耕作地の各環境とした。 任意確認ルートは、確認が予想される哺乳類の生態や周辺地形及び植生等の条件を考慮したルートを、調査季節ごとに任意で検討・設定した。
②鳥類 (一般鳥類)	新施設整備予定区域及びその周辺 200m	定点観察地点は、整備予定区域及び耕作地、人工改変地の各環境に設定した。 ライン調査ルートは、周辺地形及び植生等の条件を勘案して、各環境を網羅するように、あらかじめ設定したルートとした。 任意観察ルートは、確認が予想される鳥類の生態や周辺地形及び植生等の条件を考慮したルートを、調査季節ごとに任意で検討・設定した。
③鳥類 (猛禽類)	新施設整備予定区域及びその周辺 1.5km	調査範囲を広く観察できる 9 地点（主要定点 4 地点及び補足定点 5 地点）のうち、対象となる猛禽類の出現状況や時間帯などを考慮して、日替わりで 3 地点を使用した。
④両生類・爬虫類	新施設整備予定区域及びその周辺 200m	任意確認ルートは、確認が予想される両生類・爬虫類の生態や周辺地形及び植生等の条件を考慮したルートを、調査季節ごとに任意で検討・設定した。
⑤昆虫類	新施設整備予定区域及びその周辺 200m	トラップ調査地点は、谷戸、雑木林及び耕作地の各環境とした。 任意採集ルートは、確認が予想される昆虫類の生態や周辺地形及び植生等の条件を考慮したルートを、調査季節ごとに任意で検討・設定した。
⑥昆虫類(ゲンジボタル)	新施設整備予定区域からの濁水が流入する可能性のある沢及び流入先の沢（濁水の影響が生じない上流側を含む）	とした。
⑦陸産貝類	新施設整備予定区域及びその周辺 200m	任意採集ルートは、確認が予想される陸産貝類の生態や周辺地形及び植生等の条件を考慮したルートを、調査季節ごとに任意で検討・設定した。
⑧魚類	新施設整備予定区域及びその周辺 200m 及び新施設整備予定区域からの濁水が影響を受ける可能性のある範囲	調査地点は、池 5 ケ所、沢 2 区分とした。 池は、直接改変が想定される 3 地点、濁水が流入する可能性のある 1 地点、新施設整備予定区域周辺 200m 範囲内の改変や濁水の影響の無い 1 地点とした。
⑨底生動物		沢は、新施設整備予定区域下流側の濁水が流入する可能性のある 2 区分とした。



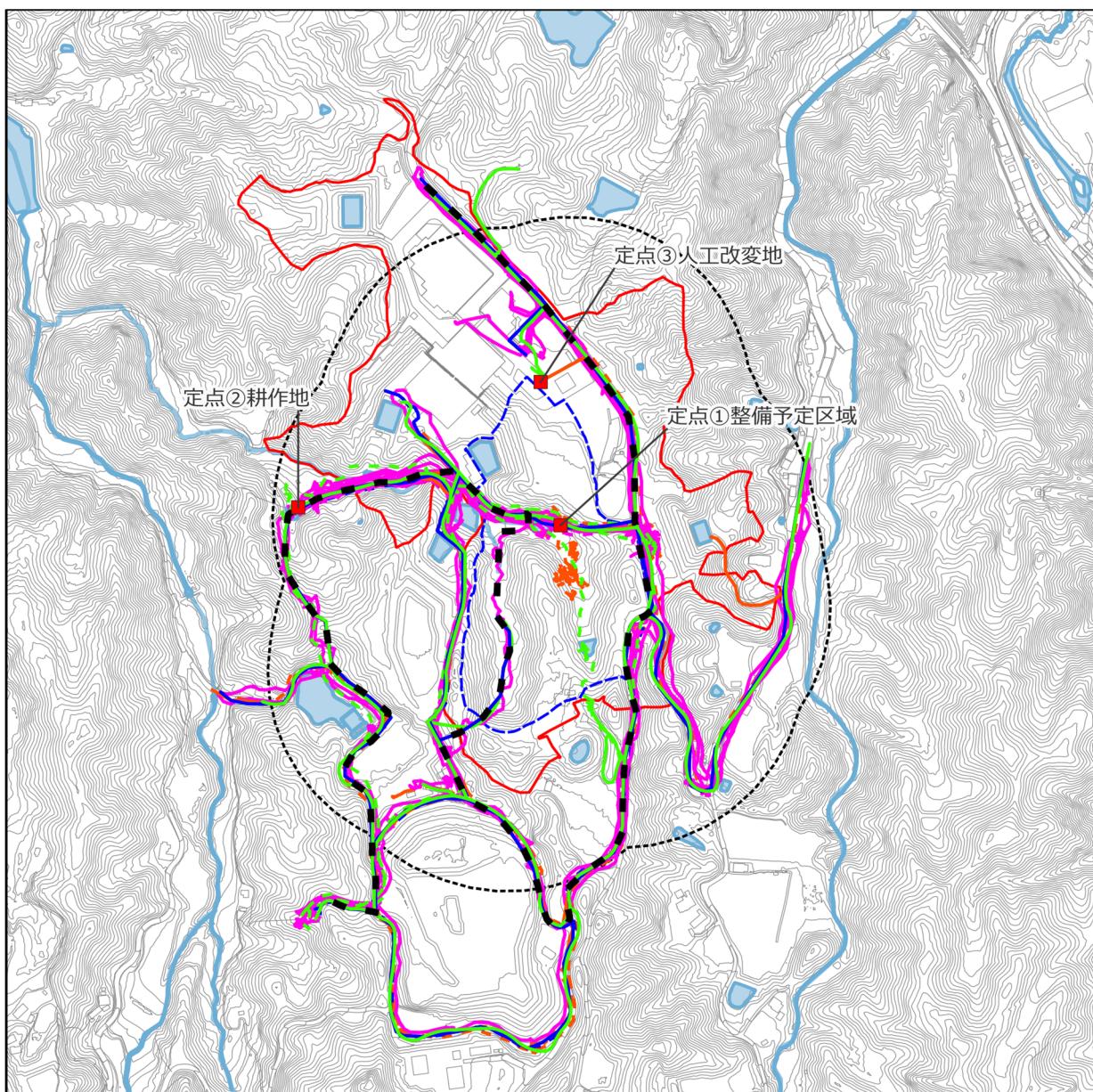
### 凡 例

- |  |           |   |
|--|-----------|---|
| <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> </span>                      | 対象事業実施区域  | <span style="color: orange;">—</span> 任意調査ルート（秋季）   |
| <span style="border: 1px dashed blue; padding: 2px;"> </span>                    | 新施設整備予定区域 | <span style="color: magenta;">—</span> 任意調査ルート（春季）  |
| <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> </span>                   | 主な調査範囲    | <span style="color: cyan;">—</span> 任意調査ルート（夏季）   |
| <span style="background-color: green; color: white; padding: 2px 10px;"> </span> | トラップ設置範囲  | <span style="color: red;">- - -</span> 夜間調査ルート（秋季）<br><span style="color: magenta;">- - -</span> 夜間調査ルート（春季）<br><span style="color: cyan;">- - -</span> 夜間調査ルート（夏季） |

※この地図は、国土地理院の基盤地図情報（数値標高モデル、基本項目）を加工して作成したものである。

1:7,500  
N  
0 100 200 300 m

図 6.7.1-1 (1) 哺乳類現地調査位置図



## 凡 例

- |   |            |  |
|---|------------|--|
| <span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>    | 対象事業実施区域   | <span style="color: orange;">—</span> 任意調査ルート（秋季）      |
| <span style="border: 1px dashed blue; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>  | 新施設整備予定区域  | <span style="color: blue;">—</span> 任意調査ルート（冬季）        |
| <span style="border: 1px dashed black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span> | 主な調査範囲     | <span style="color: magenta;">—</span> 任意調査ルート（春季）     |
| <span style="border: 0; border-top: 1px dashed black; padding-top: 2px;">— —</span>               | ラインセンサスルート | <span style="color: green;">—</span> 任意調査ルート（初夏季）      |
| <span style="color: red;">■</span>  | 定点調査地点     | <span style="color: orange;">- - -</span> 夜間調査ルート（秋季）  |
|   |            | <span style="color: blue;">- - -</span> 夜間調査ルート（冬季）    |
|   |            | <span style="color: magenta;">- - -</span> 夜間調査ルート（春季） |
|   |            | <span style="color: green;">- - -</span> 夜間調査ルート（初夏季）  |

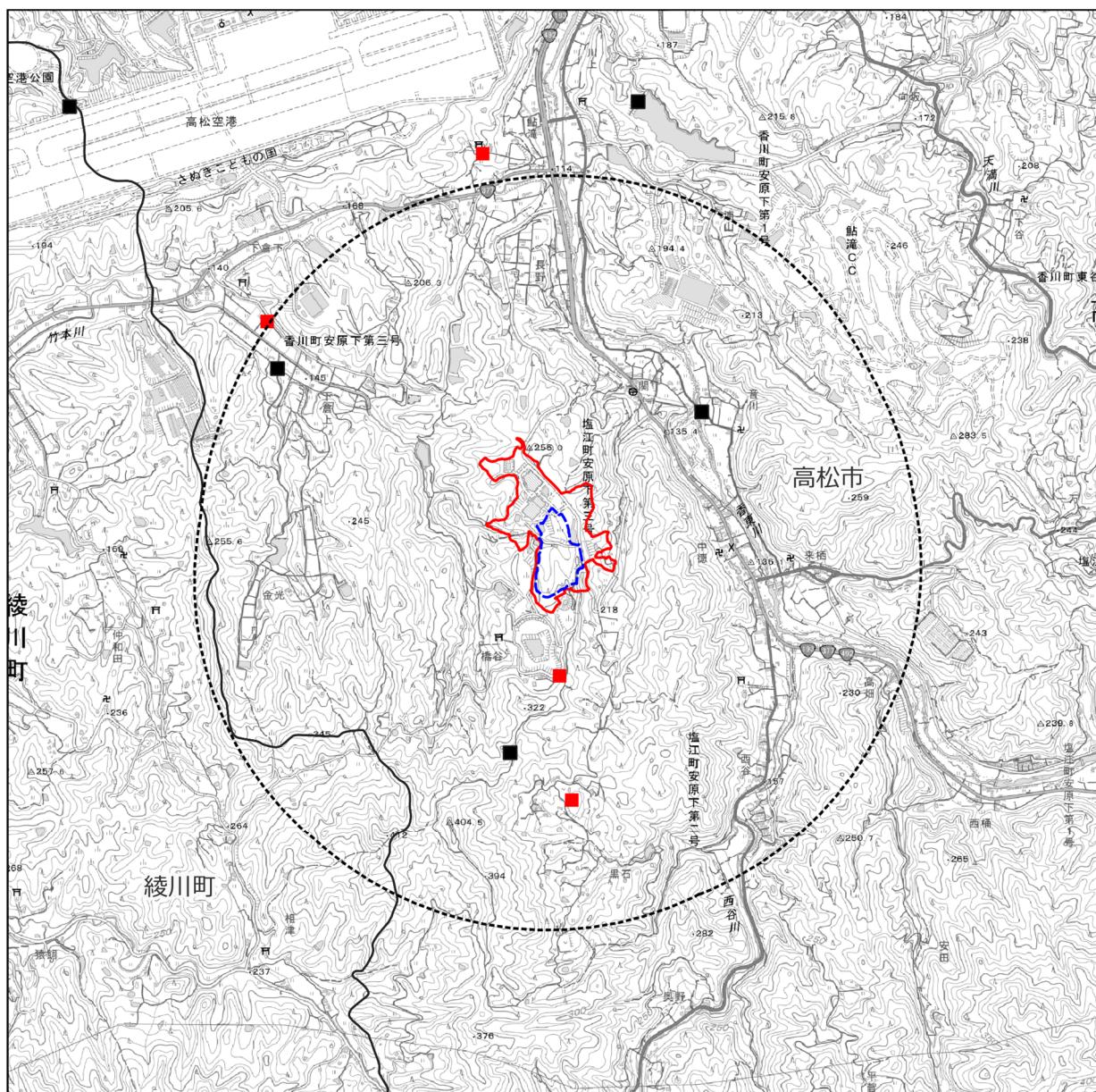
1:7,500



0 100 200 300 m

※この地図は、国土地理院の基盤地図情報（数値標高モデル、基本項目）を加工して作成したものである。

図 6.7.1-1(2) 鳥類（一般鳥類）現地調査位置図



※この地図は、国土地理院発行の電子地形図 25000  
を複製して情報を追記したものである。

### 凡 例

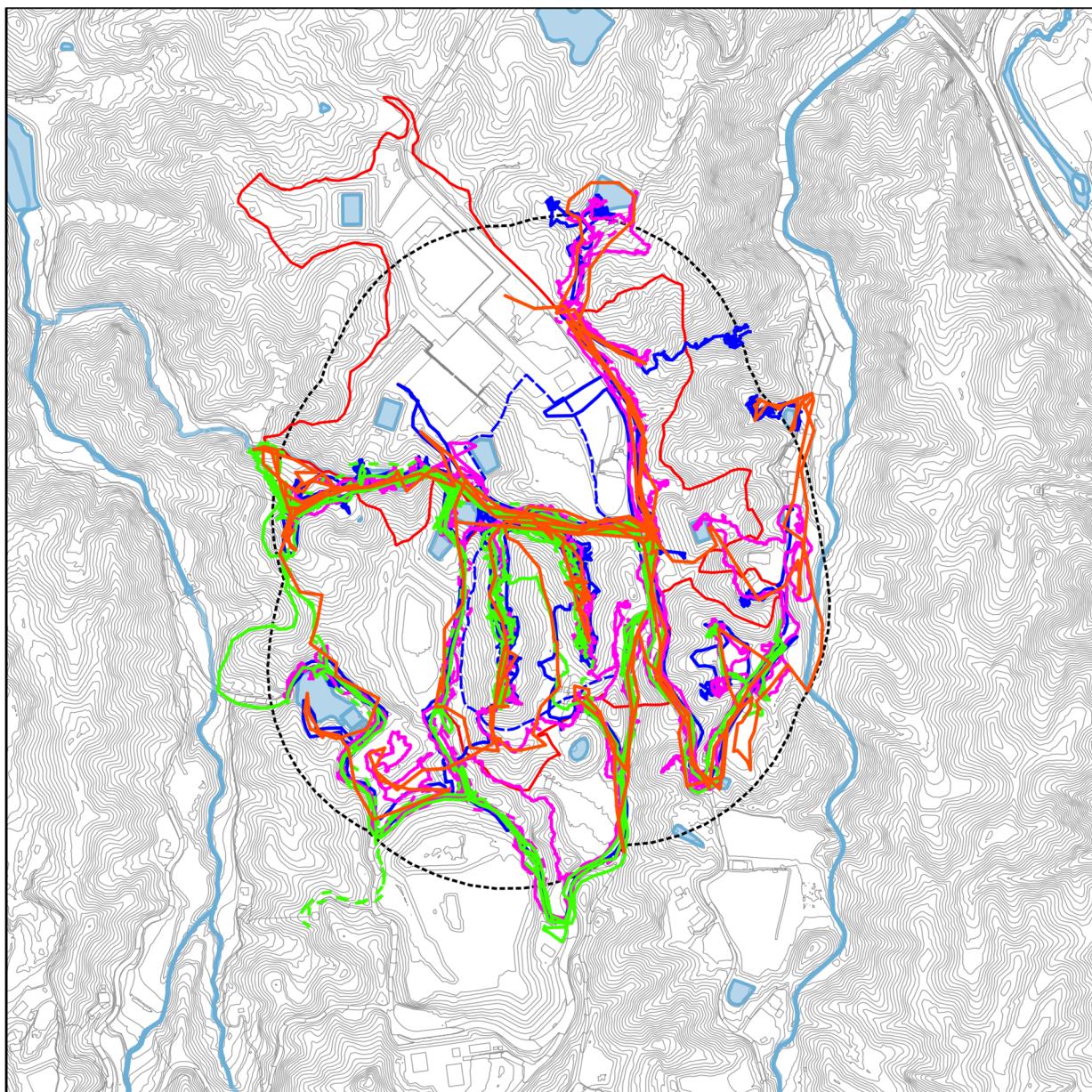
- 対象事業実施区域
- 新施設整備予定区域
- 猛禽類調査範囲
- 調査定点（主要地点）  
■ 調査定点（補足地点） } これらの定点より 3 地点を選択

1:30,000



0 0.25 0.5 0.75 1 1.25 km

図 6.7.1-1(3) 鳥類（猛禽類）現地調査位置図



## 凡 例

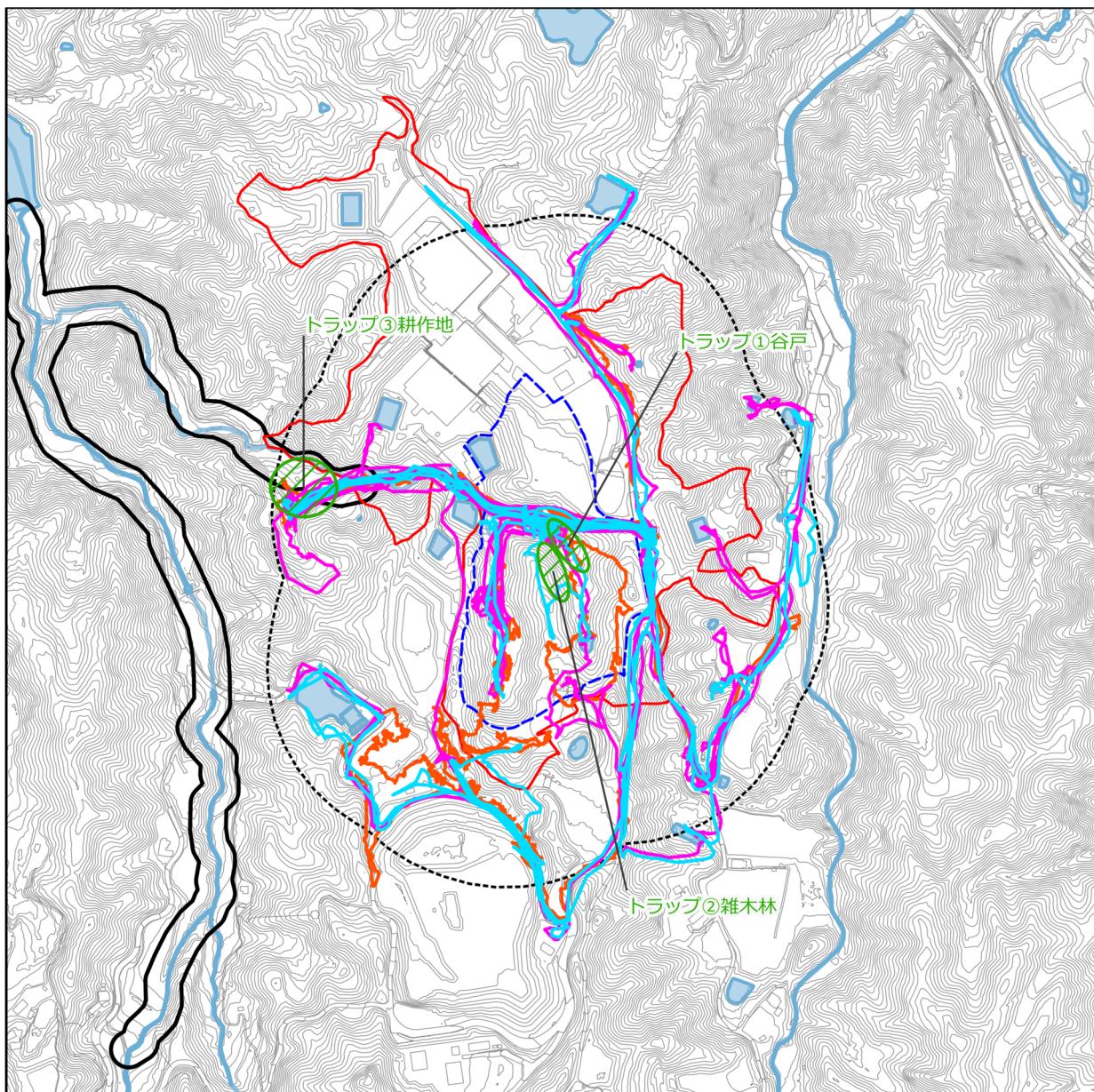
- 対象事業実施区域
- 新施設整備予定区域
- 主な調査範囲

- 異意調査ルート（秋季）
- 異意調査ルート（早春季）
- 異意調査ルート（春季）
- 異意調査ルート（初夏季）
- - - 夜間調査ルート（秋季）
- - - 夜間調査ルート（早春季）
- - - 夜間調査ルート（春季）
- - - 夜間調査ルート（初夏季）

1:7,500  
N  
0 100 200 300 m

※この地図は、国土地理院の基盤地図情報（数値標高モデル、基本項目）を加工して作成したものである。

図 6.7.1-1(4) 両生類・爬虫類現地調査位置図



### 凡 例

- |   |            |  |             |
|---|------------|--|-------------|
| <span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>    | 対象事業実施区域   | <span style="color: orange;">—</span>  | 任意調査ルート（秋季） |
| <span style="border: 1px dashed blue; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>  | 新施設整備予定区域  | <span style="color: magenta;">—</span> | 任意調査ルート（春季） |
| <span style="border: 1px dashed black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span> | 主な調査範囲     | <span style="color: cyan;">—</span>    | 任意調査ルート（夏季） |
| <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>  | ゲンジボタル調査範囲 |  |             |
| <span style="background-color: green; display: inline-block; width: 15px; height: 10px;"></span>  | トラップ設置範囲   |  |             |

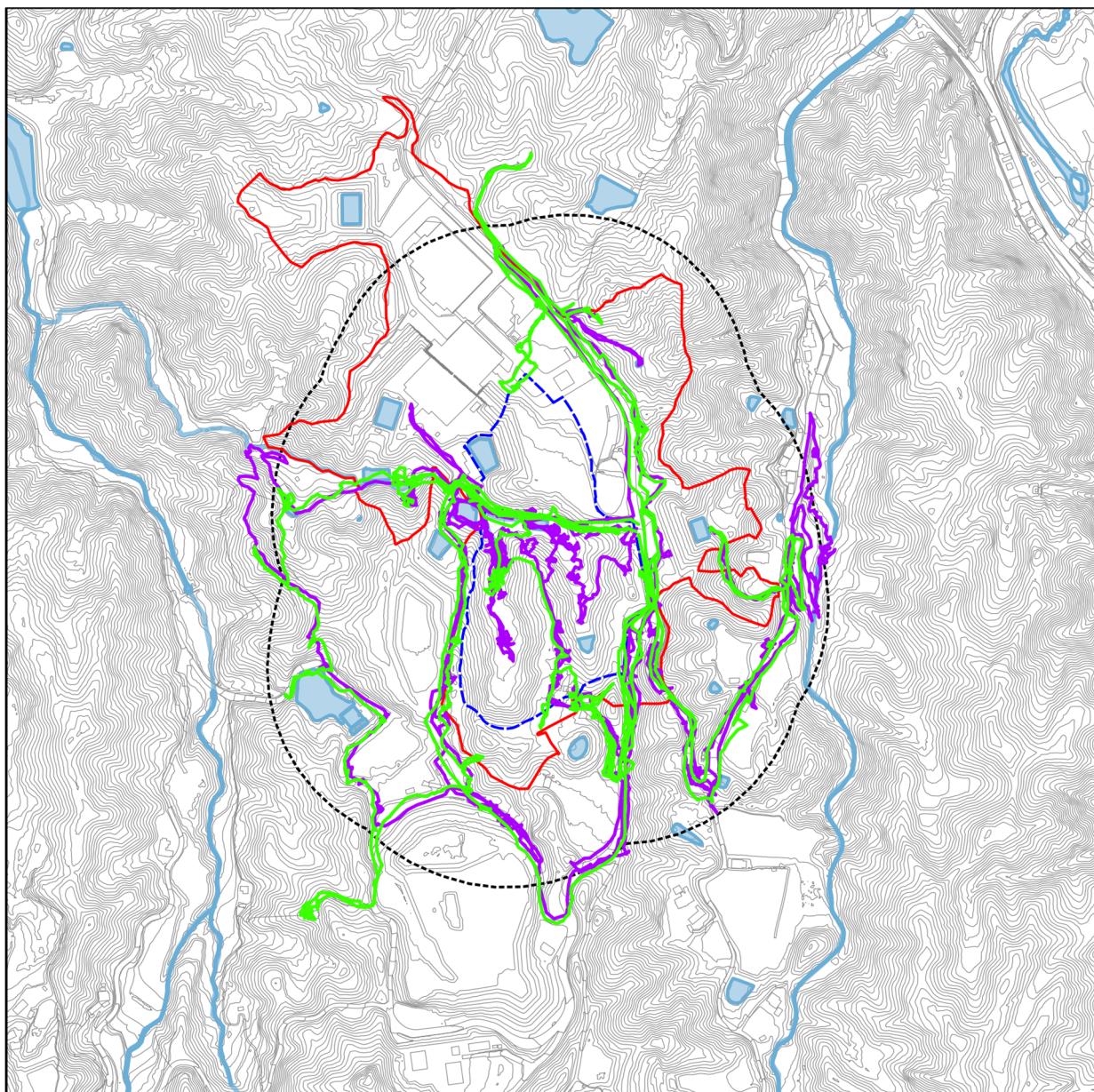
1:7,500



0 100 200 300 m

※この地図は、国土地理院の基盤地図情報（数値標高モデル、基本項目）を加工して作成したものである。

図 6.7.1-1(5) 昆虫類現地調査位置図



### 凡 例

- 対象事業実施区域
- 新施設整備予定区域
- 主な調査範囲
- 任意調査ルート（秋季）
- 任意調査ルート（初夏季）

※この地図は、国土地理院の基盤地図情報（数値標高モデル、基本項目）を加工して作成したものである。

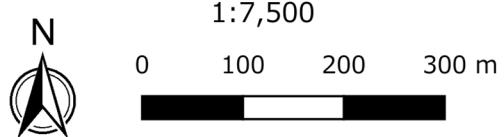
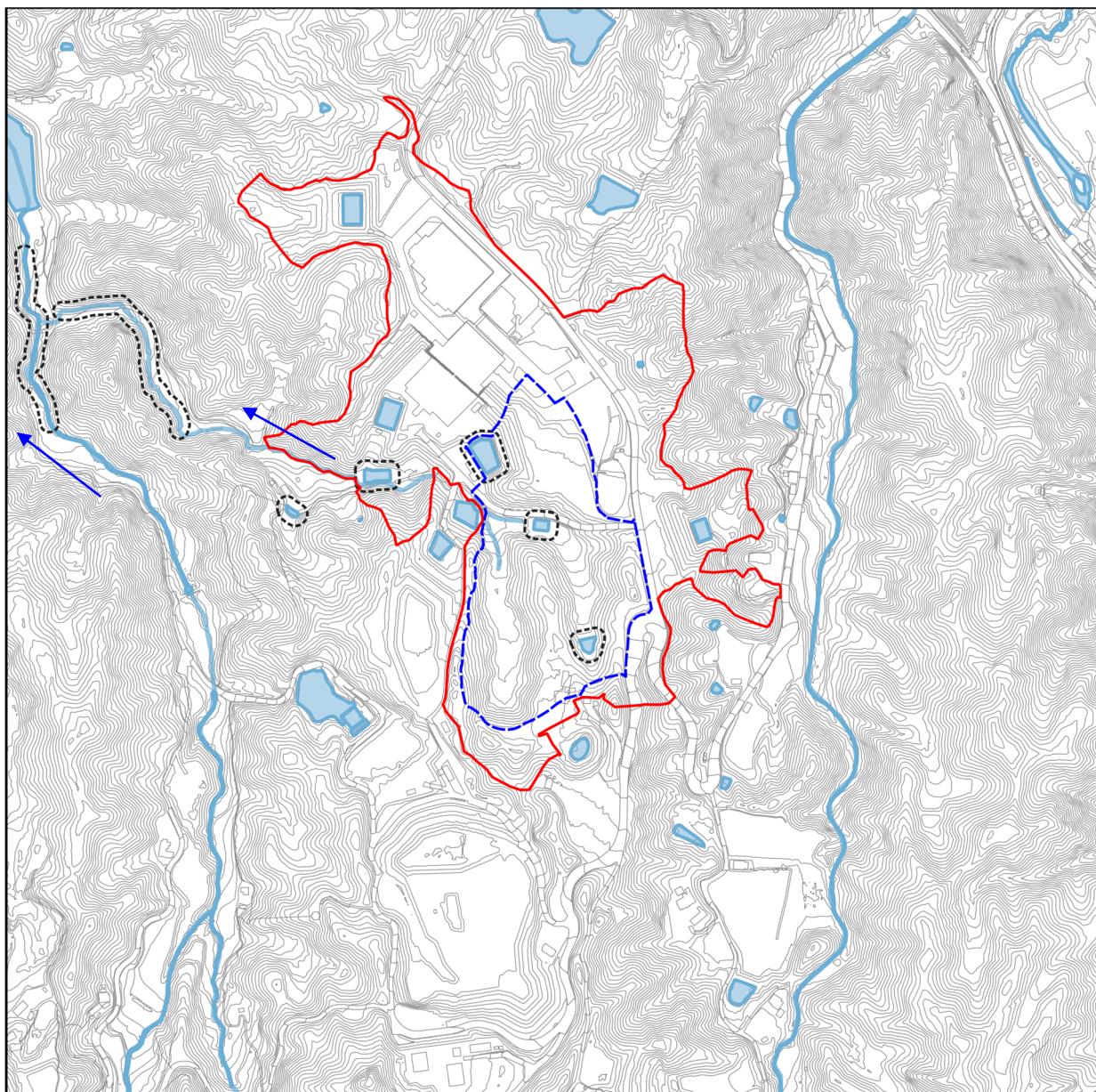


図 6.7.1-1(6) 陸産貝類現地調査位置図



### 凡 例

- 対象事業実施区域
- 新施設整備予定区域
- 調査範囲

※この地図は、国土地理院の基盤地図情報（数値標高モデル、基本項目）を加工して作成したものである。

1:7,500  
N  
0 100 200 300 m

図 6.7.1-1(7) 魚類・底生動物現地調査位置図

#### (4) 調査対象期間等

調査期間は、動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種等及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とした。

各調査項目の調査期間等を表 6.7.1-13に示す。

**表 6.7.1-13 調査対象期間等**

分類群	調査方法	調査対象期間
哺乳類	任意確認法 トラップ法 コウモリ類夜間調査法	秋季：令和6年10月8日(火)～9日(水)
		春季：令和7年5月1日(木)～2日(金)
		夏季：令和7年7月31日(木)～8月1日(金)
	自動撮影法	秋季：令和6年10月8日(火)～18日(金)
		春季：令和7年5月1日(木)～10日(土)
		夏季：令和7年7月31日(木)～8月14日(木)
鳥類 (一般鳥類)	任意観察法 定点観察法 ラインセンサス法 夜間調査法	秋季：令和6年10月8日(火)～9日(水)
		冬季：令和6年12月12日(木)～13日(金)
		春季：令和7年5月1日(木)～2日(金)
		初夏季：令和7年6月2日(月)～3日(火)
鳥類 (猛禽類)	定点観察法 営巣林踏査	令和6年2月20日(火)～22日(木)
		令和6年3月14日(木)～16日(土)
		令和6年4月25日(木)～27日(土)
		令和6年5月28日(火)～30日(木)
		令和6年6月17日(月)～19日(水)
		令和6年7月3日(水)～5日(金)
		令和6年8月5日(月)～7日(水)
両生類・ 爬虫類	任意観察法	秋季：令和6年10月8日(火)～9日(水)
		早春季：令和7年2月13日(木)～14日(金)
		補足調査：令和7年3月27日(木)～28日(金)
		春季：令和7年5月1日(木)～2日(金)
		初夏季：令和7年6月2日(月)～3日(火)
昆虫類	任意採集法 ライトトラップ法 ベイトトラップ法	秋季：令和6年10月8日(火)～9日(水)
		春季：令和7年5月1日(木)～10日(土)
		夏季：令和7年7月31日(木)～8月14日(木)
	ゲンジボタル調査	初夏季：令和7年6月2日(月)
陸産貝類	任意採集法	秋季：令和6年10月1日(火)～2日(水)
		初夏季：令和7年6月2日(月)～3日(火)
魚類	任意採集法 トラップ法	秋季：令和6年10月1日(火)～2日(水)
		冬季：令和6年12月16日(月)～17日(火)
		春季：令和7年5月1日(木)～2日(金)
		夏季：令和7年8月13日(水)～14日(木)
底生動物	定性採集法	秋季：令和6年10月1日(火)～2日(水)
		冬季：令和6年12月16日(月)～17日(火)
		春季：令和7年5月1日(木)～2日(金)
		夏季：令和7年8月13日(水)～14日(木)

## (5) 調査結果

- 1) 哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、陸産貝類、魚類、底生動物の生息種、生息状況

各調査項目の現地調査での確認種数を表 6.7.1-14に示す。

**表 6.7.1-14 各調査項目における確認種数**

調査項目	確認種数	備考
哺乳類	7目 13科 17種	
鳥類（一般鳥類）	11目 28科 62種	猛禽類調査との重複種を含む。
鳥類（猛禽類）	2目 3科 9種	一般鳥類調査との重複種を含む。
爬虫類	2目 6科 9種	
両生類	2目 7科 11種	
昆虫類	17目 176科 571種	底生動物調査との重複種を含む。
陸産貝類	2目 10科 24種	
魚類	3目 3科 4種	
底生動物	19目 72科 139種	昆虫類調査との重複種を含む。

### ① 哺乳類

哺乳類の現地調査における確認種一覧を表 6.7.1-15に示す。7目13科17種の哺乳類が確認された。

調査地域では年間を通してノウサギやタヌキ、テンが確認された。湿地では、イノシシの堀跡や背こすり跡、ニホンアナグマの古巣が確認された。

赤外線カメラでは、ノウサギ、タヌキ、テン、アナグマ、イノシシが期間を通じて確認されたほか、秋季にキツネやニホンジカ、春季にニホンザルやイタチ属の一種、夏季にハクビシンが確認された。

シャーマントラップでは、アカネズミが期間を通じて捕獲された。

コウモリ類夜間調査では、キクガシラコウモリが期間を通じて確認されたほか、春季及び夏季にはヒナコウモリ科の一種が確認された。

なお、確認手法別の確認状況一覧は、資料編に掲載した。

表 6.7.1-15 哺乳類調査確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認時期			確認状況
				秋季	春季	夏季	
1	モグラ	モグラ	モグラ属の一種	○	○	○	坑道・塚
2	コウモリ	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	○	○	○	目撃・糞・超音波
3		ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科の一種		○	○	超音波
4	サル	オナガザル	ニホンザル		○		自動撮影
5	ウサギ	ウサギ	ノウサギ	○	○	○	目撃・食痕・糞・自動撮影
6	ネズミ	リス	ムササビ	○			爪痕
7		ネズミ	アカネズミ	○	○	○	捕獲
8			カヤネズミ	○			巣
-			ネズミ科	○	○		自動撮影
9	ネコ	アライグマ	アライグマ	○			足跡
10		イヌ	タヌキ	○	○	○	目撃・足跡・自動撮影
11			キツネ	○			糞・自動撮影
12		イタチ	テン (ホンドテン)	○	○	○	足跡・糞・自動撮影
13			イタチ属の一種	○	○		目撃、糞・自動撮影
14			アナグマ	○	○	○	巣、足跡・自動撮影
15		ジャコウネコ	ハクビシン			○	自動撮影
16	ウシ	イノシシ	イノシシ	○	○	○	目撃・足跡・糞・堀跡・ぬた場・自動撮影
17		シカ	ニホンジカ	○			自動撮影
計	7 目	13 科	17 種	14 種	10 種	10 種	-

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) モグラ属は、坑道、塚の確認であり、種の同定には至らなかった。分布域からコウベモグラの可能性が高い。

注3) ヒナコウモリ科は、バットディテクターによる確認であり、種の同定には至らなかった。確認された周波数(50kHz)及び分布域より、アブラコウモリ、モモジロコウモリ、ノレンコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリの可能性がある。

注4) ネズミ科は、赤外線カメラによる確認であり、種の同定には至らなかった。

注5) イタチ属は、目撃や糞による確認であり、種の同定には至らなかった。ニホンイタチ、シベリアイタチの可能性がある。

## ② 鳥類（一般鳥類）

鳥類（一般鳥類）の現地調査における確認種一覧を表 6.7.1-16に示す。11目28科62種の鳥類が確認された。

既存施設（南部クリーンセンター）周辺では、留鳥のハクセキレイ、スズメの巣が確認され、ハシブトガラスやツバメの探餌が確認された。

池では、アオサギ、ダイサギなど魚食性の鳥類や、秋季や冬季には冬鳥のオシドリやヨシガモなどが確認された。

調査範囲の広域において、留鳥のカワラヒワやヒゲガビチョウ、ソウシチョウ、リュウキュウサンショウクイなど、夏鳥のキビタキやコサメビタキ、ホトトギスやサンコウチョウなど、冬鳥のルリビタキやアオジなどが多く確認された。

初夏季の夜間調査でフクロウの鳴き声が確認された。

表 6.7.1-16(1) 一般鳥類調査確認種一覧

No.	目名	科名	種名	渡り区分	確認時期				繁殖ランク
					秋季	冬季	春季	初夏季	
1	キジ	キジ	コジュケイ	留			○	○	B
2	カモ	カモ	オシドリ	冬/留	○				D
3			ヨシガモ	冬		○			D
4			マガモ	冬		○			D
5			キンクロハジロ	冬		○	○		D
6	カツツブリ	カツツブリ	カツツブリ	留		○			C
7	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	留	○	○	○	○	B
8			キジバト	留	○	○	○	○	B
9			アオバト	留		○	○		B
10	カツオドリ	ウ	カワウ	留	○		○	○	D
11	ペリカン	サギ	アオサギ	留	○		○		D
12			ダイサギ	留			○		D
13	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	夏				○	B
14			ツツドリ	夏			○		B
15	タカ	ミサゴ	ミサゴ	留			○		B
16		タカ	トビ	留	○		○		C
17			ツミ	留	○				D
18			サシバ	夏	○		○		D
19			ノスリ	冬	○	○			D
20	フクロウ	フクロウ	フクロウ	留				○	B
21	キツツキ	キツツキ	コゲラ	留	○	○	○	○	B
22			アオゲラ	留	○		○	○	B
23	スズメ	サンショウクイ	リュウキュウサンショウクイ	留	○	○	○		B
24		カササギヒタキ	サンコウチョウ	夏				○	B
25		モズ	モズ	留	○	○			B
26		カラス	カケス	留	○	○		○	B
27			ハシボソガラス	留	○	○	○	○	B
28			ハシブトガラス	留	○	○	○	○	B
29		シジュウカラ	ヤマガラ	留	○	○	○	○	B
30			ヒガラ	留		○			D

表 6.7.1-16(2) 一般鳥類調査確認種一覧

No.	目名	科名	種名	渡り区分	確認時期				繁殖ランク
					秋季	冬季	春季	初夏季	
31	スズメ	シジュウカラ	シジュウカラ	留	○	○	○	○	B
32		ツバメ	ツバメ	夏	○		○	○	B
33		コシアカツバメ		夏				○	B
34		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留	○	○	○	○	B
35		ウグイス	ウグイス	留	○	○	○	○	B
36		ヤブサメ		夏			○	○	B
37		エナガ	エナガ	留	○	○	○	○	B
38		ムシクイ	メボソムシクイ	夏	○				C
39		エゾムシクイ		夏			○		C
40		センダイムシクイ		夏			○	○	B
41		チメドリ	ヒゲガビチョウ	留	○		○	○	B
42		ソウシチョウ		留	○	○	○	○	A
43		メジロ	メジロ	留	○	○	○	○	B
44		ヒタキ	トラツグミ	冬/留	○				C
45		シロハラ		冬		○			D
46		アカハラ		冬		○			D
47		ツグミ		冬		○			D
48		ルリビタキ		冬		○			D
49		ジョウビタキ		冬		○			D
50		エゾビタキ		通	○				D
51		コサメビタキ		夏	○		○	○	B
52		キビタキ		夏	○		○	○	B
53		オオルリ		夏	○		○		B
54		スズメ	スズメ	留	○		○	○	A
55	セキレイ	キセキレイ		留	○	○	○	○	A
56		ハクセキレイ		留	○		○	○	A
57		セグロセキレイ		留	○		○	○	B
58		ビンズイ		冬			○		C
59	アトリ	カワラヒワ		留		○	○	○	B
60		イカル		留	○		○	○	B
61	ホオジロ	ホオジロ		留	○	○	○	○	B
62		アオジ		冬		○	○		D
計	11 目	28 科	62 種	-	37 種	31 種	41 種	33 種	-

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) 渡り区分については、以下の通り区分した。

留：留鳥、夏：夏鳥、冬：冬鳥、通：通過鳥、漂：漂鳥

注3) 調査地域周辺における繁殖ランクは、「全国鳥類繁殖分布調査マニュアル」（2015年、全国鳥類繁殖分布調査事務局）に準拠し、現況調査で観察した行動等をもとに判定した。なお、猛禽類の繁殖状態の判定は、鳥類（猛禽類）の調査結果も含めて判定した。

ランクA：繁殖を確認した

ランクB：繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある

ランクC：生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない

ランクD：姿・声を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

### ③ 鳥類（猛禽類）

猛禽類の現地調査における確認種一覧を表 6.7.1-17に示す。2目3科9種の猛禽類が確認された。

幼鳥及び営巣場所が確認されたオオタカは繁殖ランクAに、営巣地の特定には至らなかつたが繁殖行動の一端とみられる餌運搬が確認されたミサゴは繁殖ランクBに該当するが、その他の種はランクC又はDと判定した。

表 6.7.1-17 猛禽類調査確認種一覧

No.	目名	科名	種名	渡り区分	調査時期								繁殖ランク
					2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
1	タカ	ミサゴ	ミサゴ	留	○	○	○	○	○	○	○	B	
2		タカ	ハチクマ	夏				○	○	○	○	C	
3			ツミ	夏			○			○		D	
4			ハイタカ	冬	○	○	○					D	
5			オオタカ	留	○	○	○			○	○	A	
6			サシバ	夏			○	○	○		○	D	
7			ノスリ	冬	○	○						D	
8	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	冬/留	○							D	
9			ハヤブサ	留		○						D	
計	2 目	3 科	9 種	-	5 種	5 種	5 種	3 種	3 種	4 種	4 種	-	

注1) 種名及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) 渡り区分については、以下の通り区分した。

留：留鳥、夏：夏鳥、冬：冬鳥、通：通過鳥、漂：漂鳥

注3) 調査地域周辺における繁殖ランクは、「全国鳥類繁殖分布調査調査マニュアル」（2015年、全国鳥類繁殖分布調査事務局）に準拠し、現況調査で観察した行動等をもとに判定した。

ランクA：繁殖を確認した

ランクB：繁殖の確認はできなかつたが、繁殖の可能性がある

ランクC：生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない

ランクD：姿・声を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

#### ④ 両生類・爬虫類

##### i) 両生類

両生類の現地調査における確認種一覧を表 6.7.1-18に示す。2目7科11種の両生類が確認された。

湿地や池では、早春季にセトウチサンショウウオやアカガエル属の一種の卵塊が確認され、春季には幼生が確認された。その他の種では、春季から秋季にかけて、アカハライモリやニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、通年でニホンアカガエルやヤマアカガエル、ウシガエル、シュレーゲルアオガエルが確認された。

沢では、秋季、春季及び初夏季にタゴガエルの成体と亜成体が確認された。

**表 6.7.1-18 両生類調査確認種一覧**

No.	目名	科名	種名	確認時期				確認状況
				秋季	早春季	春季	初夏季	
1	有尾	サンショウウオ	セトウチサンショウウオ		○	○	○	幼生、卵塊
2		イモリ	アカハライモリ	○		○	○	成体
3	無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	○		○	○	成体、亜成体、幼生
4		アマガエル	ニホンアマガエル	○		○	○	成体
5		アカガエル	タゴガエル	○		○	○	成体、亜成体
6			ニホンアカガエル	○	○	○	○	成体、亜成体、幼生
7			ヤマアカガエル	○	○	○	○	成体、亜成体、幼生
-			アカガエル属の一種		○	○	○	亜成体、幼生、卵塊
8			トノサマガエル	○		○	○	成体
9			ウシガエル	○	○	○	○	成体、亜成体、幼生
10			ヌマガエル	○				成体
11		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	○	○	○	○	成体、亜成体、幼生
計	2 目	7 科	11 種	10 種	5 種	10 種	10 種	-

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) アカガエル属の一種は、幼生もしくは卵塊の確認であり、種の同定には至らなかった。環境条件や確認時期からニホンアカガエルもしくはヤマアカガエルと想定される。

## ii) 爬虫類

爬虫類の現地調査における確認種一覧は表 6.7.1-19に示す。2目6科9種の爬虫類が確認された。

林縁では、ニホントカゲやニホンカナヘビが確認され、幼体も確認された。

池では、クサガメが確認された。池周辺では、シマヘビやヤマカガシが確認され、カエル類を捕食する様子も確認された。

造成地のコンクリート壁の水抜きパイプ内にはニホンヤモリが確認され、卵や卵殻も確認された。

**表 6.7.1-19 爬虫類調査確認種一覧**

No.	目名	科名	種名	確認時期				確認状況
				秋季	早春季	春季	初夏季	
1	カメ	イシガメ	クサガメ	○		○	○	成体
2	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ			○	○	成体、卵、卵殻
3		トカゲ	ニホントカゲ			○	○	成体、幼体
4		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○		○	○	成体、幼体
5		ナミヘビ	シマヘビ	○		○	○	成体
6			アオダイショウ			○	○	成体、幼体
7			シロマダラ				○	成体
8			ヤマカガシ	○		○	○	成体、幼体
9		クサリヘビ	ニホンマムシ				○	成体
計	2 目	6 科	9 種	4 種	0 種	7 種	9 種	-

注) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

## ⑤ 昆虫類

昆虫類の現地調査における確認種の整理表を表 6.7.1-20に示す。17目176科571種の昆虫類が確認された。確認種の一覧は、資料編に掲載した。なお、底生動物調査で確認された昆虫類については、別途集計した。

混交林では、樹上性や朽木などを利用する昆虫が確認され、秋季にはハラビロカマキリやニレハムシなど、春季にはハネナシコロギスやヤニサシガメなど、夏季にゴマダラカミキリやタマムシなどが確認された。

池とその周囲では、ベニイトトンボやヨツボシトンボ、オオアメンボなどの肉食昆虫や、マメゲンゴロウ、ヒメガムシなどの水生昆虫類が確認された。

湿地では、サラサヤンマやオニヤンマの産卵行動が見られ、泥中に潜むヒメタイコウチも確認された。

林縁ではモンキアゲハやクロアゲハの吸蜜行動や、餌を探して歩き回るヒメオサムシやクロシデムシ、樹液に飛来するコクワガタやオオスズメバチが確認された。また、アブラゼミやツクツクボウシなどのセミ類やニシキリギリスやケラなどのバッタ類の鳴き声を広範囲で確認した。

草地周辺ではウスバキトンボやオオカマキリなどの肉食昆虫や、イシダアワフキやホソヘリカメムシなどの植食性カメムシ類、ベニシジミやミドリヒョウモン、キタキチョウなどのチョウ類が確認された。

## ⑥ ゲンジボタル調査

ゲンジボタル調査の結果、下流側の沢において1個体のみ確認された。調査範囲内には、ゲンジボタルの生息に適した流れの緩やかな水路等がなく、餌となるカワニナ類が少ない環境であった。

表 6.7.1-20 昆虫類調査確認種整理

目名	調査時期								合計	
	秋季		春季		初夏季 <sup>注2)</sup>		夏季			
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
イシノミ目	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1
カゲロウ目	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
トンボ目	3	12	4	4	1	1	7	17	9	26
ゴキブリ目	1	3	1	2	0	0	1	2	1	3
カマキリ目	1	3	1	1	0	0	1	1	1	3
カワゲラ目	1	2	1	2	0	0	0	0	1	3
バッタ目	11	20	4	4	0	0	6	9	14	29
ナナフシ目	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
チャタテムシ目	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1
カメムシ目	28	51	13	26	0	0	22	47	32	90
アミメカゲロウ目	2	3	1	1	0	0	4	5	4	6
シリアゲムシ目	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1
トビケラ目	2	3	4	6	0	0	5	6	9	12
チョウ目	6	21	9	18	1	1	16	44	17	68
ハエ目	9	15	23	41	0	0	16	23	31	68
コウチュウ目	22	59	25	78	1	1	28	98	42	203
ハチ目	6	28	6	27	0	0	6	30	10	55
合 計	96 科	224 種	92 科	210 種	3 科	3 種	115 科	285 種	176 科	571 種

注1) 分類・配列については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) 初夏季については、ゲンジボタル調査及び両生類調査でのみ確認した種数を示す。

## ⑦ 陸産貝類

陸産貝類の現地調査における確認種一覧を表 6.7.1-21に示す。2目10科24種の陸産貝類が確認された。

混交林の樹上では、樹上性であるセトウチマイマイが広範囲で多数確認されたほか、混交林内の倒木裏には、ミジンヤマタニシやナミギセルが確認された。

谷戸の湿地では、秋季にウメムラシタラガイやオオウエキビなどが確認された。

造成地や草地では秋季にウスカワマイマイ、初夏季にチャコウラナメクジなど攪乱の影響が強い場所を好む種が確認された。

表 6.7.1-21 陸産貝類調査確認種一覧

No.	目名	科名	種名	確認時期		確認状況
				秋 季	初 夏 季	
1	ニナ	ヤマタニシ	ミジンヤマタニシ	○	○	生貝(成・幼)、死貝(成・幼)
2		ヤマグルマガイ	ヤマクルマガイ	○	○	生貝(成)、死貝(成・幼)
3		ゴマガイ	ヒダリマキゴマガイ	○	○	生貝(成・幼)、死貝(成・幼)
4	マイマイ	キセルガイ	ナミギセル	○	○	生貝(成・幼)、死貝(成)
5		ナタネガイ	ナタネガイ	○	○	生貝(成)、死貝(幼)
6		ナメクジ	ナメクジ		○	生貝(成・幼)
7		コウラナメクジ	チャコウラナメクジ		○	生貝(成)
8		ベッコウマイマイ	ヒメベッコウガイ	○	○	死貝(成・幼)
9			ヤクシマヒメベッコウ	○		死貝(幼)
10			キビガイ	○		死貝(幼)
11			ウスイロシタラガイ	○		生貝(幼)、死貝(成)
12			マルシタラガイ		○	生貝(成)
13			コシタカシタラガイ	○	○	生貝(幼)、死貝(成・幼)
14			ウメムラシタラガイ	○	○	生貝(幼)、死貝(成・幼)
15			カサキビ	○		死貝(成・幼)
16			オオウエキビ	○		生貝(成)、死貝(成・幼)
17		ニッポンマイマイ	シメクチマイマイ	○	○	死貝(成)
18			コベソマイマイ	○	○	生貝(成・幼)、死貝(成・幼)
19		オナジマイマイ	ウスカワマイマイ	○		死貝(幼)
20			コウベマイマイ		○	生貝(成)
21			コオオベソマイマイ	○	○	生貝(成・幼)、死貝(成)
22			セトウチマイマイ	○	○	生貝(成・幼)、死貝(成・幼)
23			マメマイマイ	○		死貝(成)
24			オトメマイマイ近似種		○	死貝(成)
計	2 目	10 科	24 種	19 種	17 種	—

注) 分類・配列・種名については、主に「日本野生生物目録－本邦野生動植物の種の現状－無脊椎動物編Ⅲ」(環境庁編、平成10年)に従い、必要に応じ最新知見を加味した。

## ⑧ 魚類

魚類の現地調査における確認種一覧を表 6.7.1-22に示す。3目3科4種の魚類が確認された。

調査地域には複数の池があり、綾川水系の竹本川に接続する沢が通っている。

1か所の池では、秋季、冬季、夏季にミナミメダカが確認されたが、その他の池では魚類は確認されなかった。

下流の沢では、通年でカワヨシノボリが確認されたほか、オイカワやシマヒレヨシノボリが確認された。

**表 6.7.1-22 魚類調査確認種一覧**

No.	目名	科名	種名	確認時期							
				秋季		冬季		春季		夏季	
				沢	池	沢	池	沢	池	沢	池
1	コイ	コイ	オイカワ	○							
2	ダツ	メダカ	ミナミメダカ		○		○				○
3	スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ	○		○		○		○	
4			シマヒレヨシノボリ			○					
計	3 目	3 科	4 種	2 種	1 種	2 種	1 種	1 種	0 種	1 種	1 種

注) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

## ⑨ 底生動物

底生動物の現地調査における確認種の整理表を表 6.7.1-23に示す。19目72科138種の底生動物が確認された。なお、確認種の一覧は、資料編に掲載した。

調査地域には複数の池があり、竹本川に接続する沢が通っている。

池では計92種が確認され、止水域や流れが穏やかな場所でみられる種が多く、イトミミズ類や腹足類（巻貝）、トンボ目、水生カメムシ類（アメンボ類やマツモムシ類など）、ユスリカ類、コウチュウ目（ゲンゴロウ類やガムシ類）などの種が多く確認された。

沢では計70種が確認され、イトミミズ類が多く確認された。また、アサヒナカワトンボやミルンヤンマ、ヤマサンカクなどのトンボ類、ウルマーシマトビケラやトウヨウグマガトビケラなどのトビケラ類など流水性の水生昆虫類が確認された。

なお、池と沢の両環境において、ゲンジボタルの幼虫とその餌生物であるカワニナが確認された。

表 6.7.1-23 底生動物調査確認種整理表

綱名	目名	調査時期								合計	
		秋季		冬季		春季		夏季			
		科数	種数								
有棒状体綱	三岐腸目	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1
腹足綱	新生腹足目	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
	汎有肺目	2	4	2	2	2	3	2	4	2	4
二枚貝綱	マルスダレガイ目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
貧毛綱	オヨギミミズ目	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1
	イトミミズ目	1	5	1	6	1	7	1	6	1	7
ヒル綱	厚環帶目	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
	吻蛭目	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1
	吻無蛭目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
甲殻綱	ワラジムシ目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	エビ目	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
昆虫綱	カゲロウ目	2	3	2	4	3	4	3	3	4	6
	トンボ目	8	16	5	9	7	12	7	14	9	21
	カワゲラ目	2	2	3	4	2	2	1	2	3	4
	カメムシ目	6	11	4	5	5	9	7	15	8	17
	トビケラ目	3	3	2	3	6	6	7	9	11	13
	チョウ目	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
	ハエ目	9	15	11	24	6	18	8	19	13	37
	コウチュウ目	6	8	5	7	5	8	8	12	9	17
合 計		48 科	76 種	45 科	74 種	46 科	78 種	53 科	93 種	72 科	138 種

注) 分類・配列については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

## 2) 重要な種等の生息・分布状況及び生息環境の状況

重要な種等は、法令又は文献に該当する種とした。選定基準は表 6.7.1-24に、確認した分類群ごとの重要な種等を表 6.7.1-25に示す。

**表 6.7.1-24 重要な種等の選定基準一覧**

No.	選定基準となる法令又は文献	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号)	特天：特別天然記念物 天然：天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年法律第 75 号)	国希：国内希少野生動植物種 1 種：特定第 1 種国内希少野生動植物種 2 種：特定第 2 種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「香川県希少野生生物の保護に関する条例」(平成 17 年香川県条例第 44 号)	指定：指定希少野生動植物種
④	「環境省レッドリスト 2020」(令和 2 年 3 月、環境省)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 (CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類) VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑤	「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」(令和 3 年、香川県)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
⑥	注目種	注目：旧環境庁の「ふるさといきものの里百選」で「塩江町ホタルの里」に選定されるなど、塩江町の文化的なシンボルであることから、ゲンジボタルを選定する。

**表 6.7.1-25 分類群ごとの重要な種等**

分類群	確認種数	種名
哺乳類	2 目 2 科 2 種	ヒナコウモリ科の一種、イタチ属の一種
鳥類	4 目 5 科 11 種	オシドリ、ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、トラツグミ、コサメビタキ
両生類	2 目 4 科 4 種	セトウチサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル
爬虫類	1 目 1 科 1 種	ニホントカゲ
昆虫類	5 目 12 科 19 種	ベニイトトンボ、カトリヤンマ、サラサヤンマ、キイロサナエ、オジロサナエ、タベサナエ、ヒメアカネ、オオミズムシ、ヒメタイコウチ、キマダラセセリ、マルチビゲンゴロウ、ミズスマシ属の一種、キイロコガシラミズムシ、スジヒラタガムシ、ヘイケボタル、ゲンジボタル、トゲアリ、ヤマトアシナガバチ、モンスズメバチ
陸産貝類	1 目 1 科 2 種	ウメムラシタラガイ、オオウエキビ
魚類	2 目 2 科 2 種	ミナミメダカ、シマヒレヨシノボリ
底生動物 (昆虫類を除く)	4 目 4 科 5 種	カワニナ属の一種、ヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキ、ドブシジミ、サワガニ

① 哺乳類

現地調査で確認した哺乳類の重要な種等を表 6.7.1-26に示す。2目2科2種の重要な種等が確認された。重要な哺乳類の分布・生息・生息環境の状況を表 6.7.1-27に示す。

なお、重要な種等の保全の観点から、確認位置等は掲載しない。

**表 6.7.1-26 確認された重要な哺乳類一覧**

No.	目名 科名	種名	確認時期			重要な種等選定根拠					確認状況	
			秋季	春季	夏季	①	②	③	④	⑤		
1	コウモリ目 ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科の一種		○	○					※ 注 2)	※ 注 2)	超音波
2	ネコ目 イタチ科	イタチ属の一種	○	○							※ 注 3)	目撃、糞・自動撮影
計	2 目 2 科	2 種	1 種	2 種	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	2 種	-	

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) ヒナコウモリ科の一種は、バットディテクターによる確認であり、種の同定には至らなかった。確認された周波数（50kHz）及び分布域より、アブラコウモリ、モモジロコウモリ、ノレンコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリの可能性がある。ノレンコウモリの場合は環境省RLの【VU】、テングコウモリの場合は香川県RDBの【DD】に該当する。

注3) イタチ属の一種は、目撃や糞による確認であり、種の同定には至らなかった。二ホンイタチ、シベリアイタチの可能性があり、二ホンイタチの場合は香川県RDBの【NT】に該当する。

注4) 重要な種等の選定基準を前掲表 6.7.1-24に示す。

**表 6.7.1-27(1) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況  
(ヒナコウモリ科の一一種)**

分類	コウモリ目 ヒナコウモリ科		(画像なし)	
種名	ヒナコウモリ科の一一種			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	※ノレンコウモリ： 絶滅危惧 II 類		
	⑤香川県 RDB	※テングコウモリ： 情報不足		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒナコウモリ科はコウモリ目で最も種数が多い科で、多くの種が含まれる。分布域は非常に広く、北極圏を除くほぼ全世界に分布する。</li> </ul>			
生息環境・生態	<p>【ヒナコウモリ科の一般生態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主に昆虫食で、飛翔しながら空中の昆虫を捕食する。エコーロケーション（超音波による反響定位）を用いて暗闇で効率的に採餌する。</li> <li>夜行性で、日没後から夜明け前まで活動する。昼間は岩の隙間や建物の隙間などで休息する。</li> <li>森林、洞窟、岩場、人工構造物（橋梁、高層建築物など）をねぐらとして利用する。</li> </ul>			
繁殖生態	<p>【ヒナコウモリ科の一般生態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの種は春から夏にかけて繁殖する。メスは妊娠すると出産・保育のためのコロニーを形成し、人工構造物や洞窟を利用することが多い。</li> <li>1 産 1 子が基本で、子は約 1 か月で親と同じ大きさになり自立する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>春季に新施設整備予定区域外の 6 か所の林縁など、夏季に新施設整備予定区域外の林縁などの 5 か所で捕食飛翔中と考えられる個体を超音波（バットディテクター）により確認された。</li> <li>新施設整備予定区域及び周辺には、洞窟などの繁殖環境は確認されず、繁殖していないと考えられる（繁殖ランク D）。</li> </ul>			

注1) 生態情報については、様々な文献等を参考にヒナコウモリ科の一般的な生態を記載した。

注2) ヒナコウモリ科の一一種は、バットディテクターによる確認であり、種の同定には至らなかった。確認された周波数 (50kHz) 及び分布域より、アブラコウモリ、モモジロコウモリ、ノレンコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリの可能性がある。ノレンコウモリの場合は環境省RLの【VU】、テングコウモリの場合は香川県RDBの【DD】に該当する。

表 6.7.1-27(2) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（イタチ属の一種）

分類	ネコ目 イタチ科			
種名	イタチ属の一種			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	※二ホンイタチ： 準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>二ホンイタチは、県内では、讃岐山脈とその丘陵部、及び小豆島。競争関係にあるシベリアイタチが分布域を拡大して本種の分布域を狭めているとされている。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川や水田周辺、農地、森林縁辺部などに生息する。</li> <li>主にネズミ類を捕食するが、カエル、鳥類、昆虫、甲殻類、魚類なども食べる雑食性である。</li> <li>夜行性で、基本的に単独行動を行う。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>春に交尾し、一度に1~8頭を出産する。</li> <li>母親が単独で子育てし、子は約1か月で自立する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域内の湿地環境のセンサーライカで6回撮影され、春季に道路脇の1か所で個体が、耕作地の1か所で糞が確認された。</li> <li>本種は、一定の行動圏に留まる性質があることから、新施設整備予定区域周辺の樹林などで繁殖している可能性がある（繁殖ランクC）。</li> </ul>			

出典) ※1「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注1) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に二ホンイタチの一般的な生態を記載した。

注2) 遠方の目撃や糞による確認などであり、種の同定には至らなかった。二ホンイタチ、シベリアイタチの可能性がある。二ホンイタチ、シベリアイタチの可能性があり、二ホンイタチの場合は香川県RDBの【NT】に該当する。

## ② 鳥類

現地調査（一般鳥類調査及び猛禽類調査）で確認した鳥類の重要な種等を表6.7.1-28に示す。4目5科11種の重要な種等が確認された。重要な鳥類の分布・生息・生息環境の状況を表6.7.1-29に示す。

なお、重要な種等の保全の観点から、確認位置等は掲載しない。

**表 6.7.1-28 確認された重要な鳥類一覧**

No.	目名 科名	種名	渡り 区分	繁殖 ランク	確認時期							重要な種等選定根拠				
					猛禽類			一般鳥類				①	②	③	④	⑤
					冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	初夏 季					
1	カモ目 カモ科	オシドリ	冬/留	D				○								DD
2	タカ目 ミサゴ科	ミサゴ	留	C	○	○	○			○						NT NT
3	タカ目 タカ科	ハチクマ	夏	C		○	○									NT VU
4	タカ目 タカ科	ツミ	留	D		○	○	○								VU
5	タカ目 タカ科	ハイタカ	冬	D	○	○										NT NT
6	タカ目 タカ科	オオタカ	留	A	○	○	○									NT NT
7	タカ目 タカ科	サシバ	夏	D		○	○	○		○						VU VU
8	ハヤブサ目 ハヤブサ科	チョウゲンボウ	冬/留	D	○											NT
9	ハヤブサ目 ハヤブサ科	ハヤブサ	留	D		○						国 希				VU NT
10	スズメ目 ヒタキ科	トラツグミ	冬/留	C				○								NT
11	スズメ目 ヒタキ科	コサメビタキ	夏	B				○		○	○					NT
計	4 目 5 科	11 種	-	-	4 種	7 種	5 種	5 種	0 種	3 種	1 種	0 種	1 種	0 種	7 種	10 種

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) 重要な種等の選定基準を前掲表6.7.1-24に示す。

注3) 渡り区分については、以下の通り区分した。

留：留鳥、夏：夏鳥、冬：冬鳥、通：通過鳥、漂：漂鳥

注4) 調査地域周辺における繁殖ランクは、「全国鳥類繁殖分布調査マニュアル」（2015年、全国鳥類繁殖分布調査事務局）に準拠し、現況調査で観察した行動等をもとに判定した。

ランクA：繁殖を確認した

ランクB：繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある

ランクC：生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない

ランクD：姿・声を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

注5) 猛禽類調査の確認時期は次のように分配した。

冬季：2月、春季：3～5月、夏季：6～8月

表 6.7.1-29(1) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（オシドリ）

分類	カモ目 カモ科		(画像なし)	
種名	オシドリ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	情報不足		
	⑤香川県 RDB			
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア極東南部から中国、日本にかけて分布し<sup>※1</sup>、日本全国に分布する。</li> <li>・繁殖分布は主に中部～北陸地方以北であり、暖地では主に越冬のために渡来するが、四国でも稀に繁殖期に確認される。</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬は河川（上流）や湖、池沼の樹木が水辺に覆い被さっているような暗い場所を好んで生息する。<sup>※1</sup></li> <li>・主に植物食で種子やドングリを食するほか、水生昆虫などの動物も食することがある。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内では主に冬鳥であり、繁殖していない可能性が高い。</li> <li>・繁殖は主に水辺の樹林で行い、樹洞に巣をつくる。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季に新施設整備予定区域外の1か所の池で2個体が確認された。</li> <li>・非繁殖期のみの確認であり、越冬のための飛来と考えられる（繁殖ランクD）。</li> </ul>			

出典) ※1「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類」(平成26年、環境省)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-29(2) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ミサゴ）

分類	タカ目 ミサゴ科			
種名	ミサゴ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極地を除くほぼ全世界の陸水域、海岸域に生息する。<sup>※1</sup></li> <li>・国内では全国で見られ、北海道から九州の水域周辺の針葉樹や岩場に営巣する。<sup>※1</sup></li> <li>・県内では、留鳥として広い範囲で見られる。<sup>※2</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海域や河川、湖、ため池、ダム湖などで、表層を泳ぐ魚類を捕らえ、捕食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹上に巣を造り何年も使う。営巣に適した松の減少で鉄塔等の人工物を利用する例もある。<sup>※2</sup></li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猛禽類調査では2～8月に新施設整備予定区域外の広域で計24例確認され、一般鳥類調査では春季に新施設整備予定区域上空で1例が確認された。</li> <li>・複数の個体が確認され、餌運びも頻繁に確認されたが、営巣場所の特定はできなかった。観察結果から、少なくとも新施設整備予定区域の直近では繁殖していないと考えられる（繁殖ランクB）。</li> </ul>			

出典) ※1「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類」(平成26年、環境省)

※2「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

表 6.7.1-29(3) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ハチクマ）

分類	タカ目 タカ科			
種名	ハチクマ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II 類		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア及びヨーロッパに分布する。日本に生息する亜種は、夏鳥として渡来し、主に本州中部から北海道に多く繁殖する。※1</li> <li>県内では、少数は繁殖していると思われるが、近年は確認されていない。※2</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏鳥として5月ごろに渡来するが数は少ない。春と秋には山地沿いで渡りの個体を見ることがある。まとまった森林地帯で生息する。※2</li> <li>昆虫類、両生類、爬虫類など捕食するが、とくにハチ類の幼虫を好む。※2</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>雌雄協力して巣を造り、雌雄交代で抱卵する。抱卵はほぼ1日半交代で、巣から40～50km離れた場所まで採食に出かける。※1</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛禽類調査では5～8月に新施設整備予定区域外の広域で計27例が確認された。</li> <li>7月には特定の樹林への執着が確認されたが8月の出現はわずかとなり、巣は見つからなかった。観察結果から、少なくとも新施設整備予定区域の直近では繁殖していないと考えられる（繁殖ランクC）。</li> </ul>			

出典) ※1 「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類」(平成26年、環境省)

※2 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

表 6.7.1-29(4) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ツミ）

分類	タカ目 タカ科			
種名	ツミ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II 類		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧北区、東洋区。<sup>※1</sup></li> <li>・日本では、多くは夏鳥、一部は留鳥として九州以北に分布する。<sup>※1</sup></li> <li>・香川県では大川山で繁殖記録がある。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留鳥として平地から山地の林に生息するが個体数は少ない。<sup>※1</sup></li> <li>・主に小鳥を捕らえるが、昆虫類や小型の哺乳類も捕食する。<sup>※1</sup></li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に春から初夏に繁殖し、主に市街地の雑木林、農耕地周辺の林などの樹木に巣巣する。</li> <li>・産卵数は3~5個程度、抱卵は主にメスが行う。雛は巣立ち後もしばらく親から給餌を受ける。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猛禽類調査では4、7月に新施設整備予定区域外の樹林環境で各1例が確認された。一般鳥類調査では秋季に新施設整備予定区域外の林縁で1例が確認された。</li> <li>・繁殖期にも確認されたが、確認例は少なく、繁殖行動は確認されなかったことから、新施設整備予定区域周辺では繁殖していないと考えられる（繁殖ランクD）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-29(5) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ハイタカ）

分類	タカ目 タカ科			
種名	ハイタカ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内では、本州中部以北で繁殖し、冬期は全国で見られる。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬鳥として渡来し、山地、河川林、農耕地などに生息する。春と秋には渡りをする個体を山地沿いで見ることができる。<sup>※1</sup></li> <li>・小型鳥類や小動物などを捕食する。<sup>※1</sup></li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に山地や丘陵の森林、低山帯の広葉樹林や針葉樹林に巣巣する。</li> <li>・春季から初夏に繁殖する。産卵数は4~6個程度、抱卵は主にメスが行う。雛は巣立ち後もしばらく親から給餌を受ける。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・猛禽類調査では2~4月に新施設整備予定区域外の広域で計10例が確認された。</li> <li>・非繁殖期のみの確認であり、越冬のための滞在もしくは、渡り途中の滞在と考えられる（繁殖ランクD）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-29(6) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（オオタカ）

分類	タカ目 タカ科			
種名	オオタカ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の北部に広く分布する。亜種オオタカは、日本では留鳥又は漂鳥として北海道から九州で繁殖する。<sup>※1</sup></li> <li>香川県では、留鳥、一部冬鳥。山地から平地にかけての森林に生息し、数か所での繁殖が確認されている。冬は海岸沿いの平地でも少数が見られる。<sup>※2</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>低地から山地の森林に広く生息するが、主な生息地は水田や畑と森林が混在する低地から丘陵地である。中には小規模な林や都市公園内の緑地で繁殖するものもいる。<sup>※1</sup></li> <li>餌は主として中型の鳥類。<sup>※2</sup></li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>巣はアカマツやスギなどの地上 7~20m ほどの位置にかけられる。造巣求愛期は 2~3 月、4 月に産卵し、6~7 月に雛が巣立つ。巣立ち雛数は 2~3 羽のことが多い。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛禽類調査では 2~4 月及び 7~8 月に新施設整備予定区域外の広域で計 14 例が確認された。</li> <li>3 月には新施設整備予定区域から離れた地域で繁殖ペアの存在が示唆され、8 月には、新施設整備予定区域から約 2 km 離れた樹林で営巣木と巣立ち雛（鳴き声）が確認された（繁殖ランク A）。</li> </ul>			

出典) ※1 「レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類」(平成26年、環境省)

※2 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

表 6.7.1-29(7) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（サシバ）

分類	タカ目 タカ科			
種名	サシバ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	絶滅危惧 II 類		
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II 類		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本、朝鮮半島、中国東部で繁殖し、南西諸島、中国南部、東南アジアで越冬する。※1</li> <li>日本では東北地方南部から近畿地方にかけてが主要な生息域である。※1</li> <li>香川県内では、夏鳥として渡来し、山地の林で繁殖するが近年個体数が大きく減少している。※2</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>平地から山地の森林と草地が混在する環境に生息する。特に、水田と森林が混在する谷津田では生息密度が高い。草地や湿地、樹冠の葉面のカエルやトカゲ等の両生・爬虫類や、ネズミ等の小哺乳類、バッタ等の昆虫類を捕食する。森林地域に生息する個体は、林内においても捕食を行う。※1</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>3月下旬から4月上旬にかけて、営巣地に飛来し、造巣を開始する。4月中旬から5月上旬に2から4卵を産卵し、抱卵期間は約1月、巣内の雛は2から3羽、育雛期間は5週間で6月上旬から7月上旬に巣立つ。※1</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛禽類調査では、4~6及び8月に新施設整備予定区域外の広域で計6例が確認された。一般鳥類調査では、秋季に2個体が、春季に2個体の上空通過が確認された。</li> <li>繁殖期にも確認されたが、確認例は少なく、繁殖行動は確認されなかつたことから、新施設整備予定区域周辺では繁殖していないと考えられる（繁殖ランクD）。</li> </ul>			

出典) ※1「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類」(平成26年、環境省)

※2「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

表 6.7.1-29(8) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（チョウケンボウ）

分類	ハヤブサ目 ハヤブサ科		(画像なし)	
種名	チョウケンボウ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧北区、エチオピア区。※1</li> <li>日本では全国に分布。関西以北で繁殖。※1</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬鳥として開けた農耕地、丘陵地、河川敷、市街地に渡来する。※1</li> <li>小型哺乳類を主食に小鳥や昆虫も捕食する。※1</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>春から初夏に繁殖する。崖や建物の隙間、橋梁などに営巣するが、自ら巣を作らず、自然の窪みを利用することが多い。</li> <li>産卵数は3~6個程度、抱卵は主にメスが行う。巣立ち後もしばらく親から給餌を受ける。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛禽類調査では、2月に新施設整備予定区域外の耕作地で1例が確認された。</li> <li>非繁殖期のみの確認であり、越冬のための滞在と考えられる（繁殖ランクD）。</li> </ul>			

出典) ※1「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-29(9) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ハヤブサ）

分類	ハヤブサ目 ハヤブサ科		(画像なし)	
種名	ハヤブサ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法	国内希少野生動植物種		
	③香川県条例			
	④環境省 RL	絶滅危惧 II 類		
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道から九州まで留鳥として生息するほか、ロシア極東、朝鮮半島、中国南東部にかけて分布する。※<sup>1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハト、ヒヨドリ等小型から中型の鳥を空中で捕る。市街地でも補食するのがみられる。※<sup>2</sup></li> <li>主に海岸や河川流域などの開けた環境にある断崖や岩場に生息するが、冬期には越冬個体などが中・小型の鳥類が集まる河口や河川流域、湖沼付近を狩場として高頻度で利用する。※<sup>1</sup></li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>香川県では留鳥として島しょ部から内陸部の断崖の岩棚、採石場で繁殖しているが個体数は少ない。※<sup>2</sup></li> <li>3~4月に縄張り内の断崖や岩場のオーバーハングした岩棚や穴に、巣を造らずに直に3~4個の卵を産む。※<sup>1</sup></li> <li>抱卵は主にメスが担当し、雛は5週間程度で孵化する。※<sup>1</sup></li> <li>6週間前後で巣立ちを迎えるが、巣立った後も、2ヶ月ほどは親の縄張り内に留まり、独り立ちできるまでは親から給餌を受ける。※<sup>1</sup></li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛禽類調査では、3月に新施設整備予定区域外の樹林等で1例が確認された。</li> <li>繁殖期にも確認されたが、確認例は少なく、繁殖行動は確認されなかったことから、新施設整備予定区域周辺では繁殖していないと考えられる（繁殖ランクD）。</li> </ul>			

出典) ※1 「レッドデータブック 2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 鳥類」(平成 26 年、環境省)

※2 「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」(令和 3 年、香川県)

表 6.7.1-29(10) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（トラツグミ）

分類	スズメ目 ヒタキ科			
種名	トラツグミ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧北区、東洋区、オーストラリア区に分布する。<sup>*1</sup></li> <li>国内では、留鳥又は漂鳥として本州から九州の平地から山地の林に生息する。 ※1</li> <li>県内では、留鳥として讃岐山脈などの山間部で繁殖しているが数は少ない。 ※1</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬季には林縁部や樹木が多い公園でも見かける。<sup>*1</sup></li> <li>落ち葉を搔き分け歩きながら、ミミズや昆虫などを捕食する。木の実も食べる。 ※1</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>春から初夏に繁殖し、主に山地や丘陵の落葉広葉樹林、針広混交林に営巣する。</li> <li>樹上に営巣し、産卵数は3~5個程度、抱卵は主にメスが行う。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域内の樹林環境のセンサーダラマで1回撮影された。</li> <li>非繁殖期のみの確認であり、越冬のための滞在もしくは、渡り途中の滞在と考えられる（繁殖ランクD）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-29(11) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（コサメビタキ）

分類	スズメ目 ヒタキ科			
種名	コサメビタキ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本へは夏鳥として渡来し、九州以北で繁殖する。<sup>*1</sup></li> <li>夏鳥として自然林が残る山地に渡来し、繁殖するが数は少ない。<sup>*1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖期には山地や丘陵の落葉広葉樹林、針広混交林を中心に生息し、林縁や疎林、渓谷沿いなど、比較的開けた場所を好む。</li> <li>主に昆虫食で、枝先に止まって周囲を見渡し、獲物を見つけると素早く飛び出して捕食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>春から初夏に繁殖し、樹木の枝分かれ部などに営巣する。</li> <li>産卵数は3~5個程度で、抱卵は主にメスが行う。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域外の林縁で1個体が、春季に新施設整備予定区域外の林縁で1個体が、初夏季に新施設整備予定区域外の林縁で1個体が確認された。</li> <li>繁殖期に繁殖可能な環境で囀りなどの繁殖行動が確認されたことから、新施設整備予定区域周辺の樹林などで繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

### ③ 両生類

現地調査で確認した両生類の重要な種等を表 6.7.1-30に示す。2目4科4種の重要な種等が確認された。重要な種等の分布・生息の状況・生息環境の状況を表 6.7.1-31に示す。

なお、重要な種等の保全の観点から、確認位置等は掲載しない。

**表 6.7.1-30 確認された重要な両生類一覧**

No .	目名 科名	種名	確認時期				重要な種選定根拠					確認状況
			秋季	早春季	春季	初夏季	①	②	③	④	⑤	
1	有尾目 サンショウウオ科	セトウチサンショウウオ	○	○	○		2種		VU	VU		幼生、卵、卵塊
2	有尾目 イモリ科	アカハライモリ	○		○	○			NT	NT		成体
3	無尾目 ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	○		○	○					NT	成体、亜成体、 幼生
4	無尾目 アカガエル科	トノサマガエル	○		○	○			NT	NT		成体
計	2目4科	4種	3種	1種	4種	4種	0種	1種	0種	3種	4種	-

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) 初夏季のトノサマガエルは、哺乳類の夏季調査で確認されたものである。

注3) 重要な種等の選定基準を前掲表 6.7.1-24に示す。

**表 6.7.1-31(1) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況  
(セトウチサンショウウオ)**

分類	有尾目 サンショウウオ科	
種名	セトウチサンショウウオ	
選定根拠	①文化財保護法	
	②種の保存法	特定第2種国内希少野生動植物種
	③香川県条例	
	④環境省 RL	絶滅危惧 II類
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II類
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の瀬戸内地域に分布する固有種である。</li> <li>・香川県内では、讃岐平野に点在する各種溶岩をのせた山塊群（五剣山、五色台等）の山麓や県南部の丘陵地に分布する。※1</li> </ul>	
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成体は丘陵地の落葉広葉樹林や竹やぶの浅い地中、落葉や倒木の下などに生息している。※1</li> <li>・繁殖期以外は陸上生活が主体で、活動は主に夜間に行われる。</li> <li>・昆虫類やクモ、ミミズなどの小型無脊椎動物を捕食する。</li> </ul>	
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丘陵地の水田の溝、湧水、管理放棄された水田の水溜まりや小さい溜池等が産卵場所となっている。※1</li> <li>・繁殖期は早春であり、メスは水中に数十個の卵が入ったゼリー状の細長い卵嚢を産む。</li> <li>・卵は水中で発生し、幼生は約1~2ヶ月で変態し、陸上生活に移行する。</li> </ul>	
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早春季に新施設整備予定区域内の1か所の池と1か所の湿地で卵塊計12個が、春季に新施設整備予定区域内の2か所の池と新施設整備予定区域外の1か所の池で卵塊計9個と幼生計174個体が、初夏季に新施設整備予定区域外の1か所の池で幼生計7個体が確認された。</li> <li>・卵塊や幼生の存在より、新施設整備予定区域内外の3か所の池及び1か所の湿地で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。</li> </ul>	

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-31(2) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（アカハライモリ）

分類	有尾目 イモリ科			
種名	アカハライモリ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本固有種で、本州・四国・九州に広く分布する。</li> <li>香川県内では、島嶼部を除く平野部の山麓及び山間部に分布する。※1</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>綺麗な水が流入する山間部もしくは山間部寄りの平野部の水田、池、水路で生息が確認されている。※1</li> <li>陸上生活も行うが、水辺近くの湿った環境を好む。</li> <li>肉食性で、昆虫類、ミミズ、甲殻類、小魚などを捕食する。</li> <li>冬季には水底や土中で冬眠し、春に活動を再開する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖期は春であり、産卵は水中の水草や落ち葉に一粒ずつ卵を包み込むように行われ、卵数は数百個に達する。</li> <li>卵は水中で発生し、幼生は外鰓を持ち、水中生活を送った後、約2~3ヶ月で変態し、陸上生活に移行する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域外の1か所の池で成体計2個体が、春季に新施設整備予定区域外の2か所の池で成体計15個体が、初夏季に新施設整備予定区域外の1か所の池で成体4個体が確認された。</li> <li>成体のみの確認であるが、本種は移動性が乏しいことから新施設整備予定区域外の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。</li> </ul>			

出典) ※1「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-31(3) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ニホンヒキガエル）

分類	無尾目 ヒキガエル科			
種名	ニホンヒキガエル			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿以南の本州、四国、九州とその周辺島嶼部に分布する。※<sup>1</sup></li> <li>・香川県では、島嶼部、平野部の山麓及び山間部。※<sup>1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に低地から山地の森林、草地、農耕地周辺に生息する。繁殖期以外は陸上生活が中心で、水辺から離れた場所でも見られる。</li> <li>・夜行性で、日中は石の下や落ち葉の下などで休み、夜間に活動する。</li> <li>・肉食性で、昆虫類、クモ、ミミズなどを捕食する。</li> <li>・冬季は土中や落ち葉の下で冬眠する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖期は早春で、池・沼、水田、湿地など止水域繁殖する。水中に数千個の卵を長いゼリー状の卵塊で産む。</li> <li>・卵は水中で発生し、幼生は1月程度で変態し、陸上生活に移る。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季に新施設整備予定区域内の1か所の湿地で成体1個体及び新施設整備予定区域外の1か所の耕作地で亞成体1個体が、春季に新施設整備予定区域外の1か所の池で幼生約100個体が、初夏季に新施設整備予定区域外の1か所の池で幼生約100個体及び新施設整備予定区域外の1か所の樹林で成体1個体が確認された。</li> <li>・幼生の存在より、新施設整備予定区域外の1か所の池で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-31(4) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（トノサマガエル）

分類	無尾目 アカガエル科			
種名	トノサマガエル			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>香川県では主に山間部の山際及び谷間の水田周辺、島嶼部の限られた水田で生息が確認されている。<sup>※1</sup></li> <li>県外では、本州（関東平野、仙台平野を除く）、四国、九州に分布する。北海道と対馬（人為移入）。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な生息環境は水田、池、沼、河川の緩やかな流れなどであり、止水域を好む傾向がある。繁殖期以外も水辺に近い草地や湿地で生活することが多い。</li> <li>昼行性であり、主に水辺で活動する。</li> <li>食性は肉食性で、昆虫類、クモ、ミミズ、小型甲殻類などを捕食する。</li> <li>冬季には森林や草地の土中で冬眠する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖期は春から初夏で、水田などの浅い水域で繁殖する。</li> <li>産卵は水中で行われ、数千個の卵が入ったゼリー状の卵塊を産む。</li> <li>卵は水中で発生し、幼生は約1~2ヶ月で変態し、陸上生活に移行する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域外の1か所の草地で成体1個体が、春季に新施設整備予定区域内の1か所の池で成体計2個体が、初夏季に新施設整備予定区域外の1か所の池で成体1個体が確認された。</li> <li>成体のみの確認であるが、本種は移動性が乏しいことから新施設整備予定区域外の2か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。</li> </ul>			

出典) ※1「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

#### ④ 爬虫類

現地調査で確認した両生類の重要な種等を表 6.7.1-32に示す。1目1科1種の重要な種等が確認された。重要な種等の分布・生息の状況・生息環境の状況を表 6.7.1-33に示す。

なお、重要な種等の保全の観点から、確認位置等は掲載しない。

**表 6.7.1-32 確認された重要な爬虫類一覧**

No.	目名 科名	種名	確認時期				重要な種等選定根拠					確認状況
			秋季	早春季	春季	初夏季	①	②	③	④	⑤	
1	有鱗目 トカゲ科	ニホントカゲ			○	○						NT 成体、幼体
計	1 目 1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	1 種	-

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) 重要な種等の選定基準を前掲表 6.7.1-24に示す。

**表 6.7.1-33 重要な種等の分布・生息の状況・生息環境の状況（ニホントカゲ）**

分類	有鱗目 トカゲ科	
種名	ニホントカゲ	
選定根拠	①文化財保護法	
	②種の保存法	
	③香川県条例	
	④環境省 RL	
	⑤香川県 RDB 準絶滅危惧	
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>香川県内では、島嶼部、平野部の山麓、山間部に生息。<sup>※1</sup></li> <li>県外では、近畿以南の本州、四国、九州とその周辺島嶼部に生息。<sup>※1</sup></li> </ul>	
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>主な生息環境は低地から山地にかけての草地、林縁、農耕地周辺であり、日当たりの良い場所を好む。</li> <li>昼行性であり、主に暖かい時間帯に活動する。</li> <li>食性は肉食性で、昆虫類やクモなどの小型無脊椎動物を捕食する。</li> <li>冬季には土中や落ち葉の下で冬眠し、春に活動を再開する。</li> </ul>	
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖期は春から初夏で、メスは地中や石の下などに産卵し、卵数は数個から十数個程度である。</li> <li>卵は約 1~2 か月で孵化し、幼体は成体と同様に陸上生活を送る。</li> </ul>	
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>春季に新施設整備予定区域内外の 6 か所の林縁で成体計 4 個体及び幼体計 3 個体が、初夏季に新施設整備予定区域内外の 1 か所の林縁で成体 1 個体が確認された。</li> <li>幼体の存在や本種の行動範囲の狭さより、新施設整備予定区域内外の広域で繁殖が確認された（繁殖ランク A）。</li> </ul>	

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

## ⑤ 昆虫類

現地調査で確認した昆虫類（底生動物調査で確認された水生昆虫類を含む）の重要な種等を表 6.7.1-34に示す。5目12科19種の重要な種等が確認された。重要な種等の分布・生息の状況・生息環境の状況を表 6.7.1-35に示す。

なお、重要な種等の保全の観点から、確認位置等は掲載しない。

**表 6.7.1-34(1) 確認された重要な昆虫類一覧**

No.	目名 科名	種名	確認時期					重要な種等選定根拠						確認 状況	
			秋季	冬季	春季	初夏季	夏季	①	②	③	④	⑤	⑥		
1	トンボ目 イトトンボ科	ベニイトトンボ				○				NT				成虫	
2	トンボ目 ヤンマ科	カトリヤンマ	○							VU				成虫	
3	トンボ目 ヤンマ科	サラサヤンマ				○				NT				成虫	
4	トンボ目 サナエトンボ科	キイロサナエ			○					NT	DD			幼虫	
5	トンボ目 サナエトンボ科	オジロサナエ	○								NT			幼虫	
6	トンボ目 サナエトンボ科	タベサナエ	○		○	○				NT	NT			成虫・ 幼虫	
7	トンボ目 トンボ科	ヒメアカネ	○								NT			成虫	
8	カメムシ目 ミズムシ科	オオミズムシ					○			NT	NT			成虫	
9	カメムシ目 タイコウチ科	ヒメタイコウチ	○		○	○	○				VU			成虫・ 幼虫	
10	チョウ目 セセリチョウ科	キマダラセセリ	○								NT			成虫	
11	コウチュウ目 ゲンゴロウ科	マルチビゲンゴロウ			○					NT	NT			成虫	
12	コウチュウ目 ミズスマシ科	ミズスマシ属の一種				○						※ 注 4)	※ 注 4)		成虫
13	コウチュウ目 コガシラミズムシ科	キイロコガシラミズムシ			○						VU			成虫	
14	コウチュウ目 ガムシ科	スジヒラタガムシ	○		○	○				NT				成虫	
15	コウチュウ目 ホタル科	ヘイケボタル					○				NT			成虫	

表 6.7.1-34(2) 確認された重要な昆虫類一覧

No.	目名 科名	種名	確認時期					重要な種等選定根拠					確認 状況	
			秋季	冬季	春季	初夏季	夏季	①	②	③	④	⑤		
16	コウチュウ目 ホタル科	ゲンジボタル		○		○	○						注目 成虫	
17	ハチ目 アリ科	トゲアリ	○							VU	VU		成虫	
18	ハチ目 スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ					○			DD			成虫	
19	ハチ目 スズメバチ科	モンスズメバチ	○		○		○			DD			成虫・巣	
計	5 目 12 科	19 種	7 種	0 種	5 種	2 種	6 種	0 種	0 種	0 種	8 種	10 種	1 種	-

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) 重要な種等の選定基準を前掲表 6.7.1-24に示す。

注3) 調査時期の初夏季については、初夏季の両生類・爬虫類調査時に確認されたものである。

注4) ミズスマシ属の一一種は、目視による確認のみで、種の同定には至らなかった。コミズスマシ、ヒメミズスマシ、ミズスマシの可能性がある。コミズスマシは、環境省RDBの【EN】、香川県RDBの【DD】、ヒメミズスマシは、環境省RDBの【EN】、香川県RDBの【VU】、ミズスマシの場合、環境省RDBの【VU】、香川県RDBの【NT】に該当する。

表 6.7.1-35(1) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ベニイトトンボ）

分類	トンボ目 イトトンボ科	
種名	ベニイトトンボ	
選定根拠	①文化財保護法	
	②種の保存法	
	③香川県条例	
	④環境省 RL 準絶滅危惧	
	⑤香川県 RDB	
分布状況	・国内では関東地方以西の本州、四国、九州に分布している。宮城県からも知られるが近年の記録を欠く。 <sup>※1</sup>	
生息環境・生態	・おもに平地から丘陵地の植生の豊富な池沼に生息する。 <sup>※1</sup> ・成虫は6~10月頃に発生する。 <sup>※1</sup> ・肉食性で、成虫は小型の昆虫類などを捕食する。 ・幼虫は水中で生活し、水草に潜みながら小型の水生生物を捕食する。	
繁殖生態	・初夏から夏にかけて繁殖し、雌は水草や水中の植物組織に産卵する。 ・卵は水中で発生し、幼虫は水中生活を送り、数回の脱皮を経て羽化する。	
生息状況・生息環境	・夏季に新施設整備予定区域内の1か所の池で成虫約10個体が確認された。 ・確認された個体は産卵や縄張り行動などの繁殖行動を行っており、新施設整備予定区域内の1か所の池で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。	

出典) ※1 「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫類」(平成27年、環境省)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(2) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（カトリヤンマ）

分類	トンボ目 ヤンマ科		(画像なし)	
種名	カトリヤンマ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II 類		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>県外では北海道、本州、四国、九州まで普遍的に産する。※1</li> <li>県内では全域で確認されている。※1</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫は夏から秋にかけて出現する。飛翔力は強く、行動範囲は広い。日中は水辺で活動し、夕方や曇天時に活発になる傾向がある。</li> <li>肉食性で、飛翔中に小型昆虫を捕食する。</li> <li>幼虫は水中で生活し、底質に潜みながら小型の水生生物を捕食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏から秋にかけて繁殖し、雌は水際の泥や湿った土中に産卵する。</li> <li>卵は土中で発生し、幼虫は泥底で生活し、数回の脱皮を経て羽化する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域外の 1 か所の耕作地で、成虫 1 個体が確認された。</li> <li>確認場所は本種の繁殖環境ではなかった。新施設整備予定区域内に繁殖環境となり得る湿地環境が存在するが、繁殖の有無は不明である（繁殖ランク C）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(3) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（サラサヤンマ）

分類	トンボ目 ヤンマ科			
種名	サラサヤンマ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内では東かがわ市、さぬき市、高松市、坂出市、まんのう町。※1</li> <li>県外では北海道、本州、四国、九州、屋久島に分布。※1</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫は春から初夏にかけて出現する。飛翔力は強く、行動範囲は広い。</li> <li>肉食性で、飛翔中に小型昆虫を捕食する。</li> <li>幼虫は落ち葉が堆積した浅い水たまりで落葉の隙間に潜んでおり、小動物を捕食するとみられるが、野外での生態は不明である。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>春から初夏にかけて繁殖し、雌は水際の湿った土壤や苔、朽木などに産卵する。</li> <li>卵は湿った土中などで発生し、孵化した幼虫は水中生活を送り、数回の脱皮を経て羽化する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>初夏季に新施設整備予定区域内の 2 か所の湿地で成虫計 2 個体が確認された。</li> <li>確認された個体は産卵や縄張り行動などの繁殖行動を行っており、新施設整備予定区域内の湿地で繁殖が確認された（繁殖ランク A）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(4) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（キイロサナエ）

分類	トンボ目 サナエトンボ科			
種名	キイロサナエ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	情報不足		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>本州、四国、九州、種子島に分布する日本固有種。<sup>※1</sup></li> <li>県内では高松市、坂出市、まんのう町に分布。<sup>※2</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫はおもに6~7月にかけて発生する。<sup>※1</sup></li> <li>平地から丘陵地の樹林に接した砂泥底の緩やかな流れに生息する。<sup>※1</sup></li> <li>飛翔力は強く、行動範囲は広い。肉食性で、飛翔中に小型昆虫を捕食する。</li> <li>幼虫は水中で生活し、砂礫底等に潜み、底質に生息する小動物を捕食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>成熟したオスは水辺の植物や石などに静止して縄張りを形成し、メスは打水又は打泥産卵を行う。<sup>※1</sup></li> <li>卵は水中で発生し、孵化した幼虫は流れのある環境で生活し、数回の脱皮を経て羽化する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>底生動物調査では、春季に沢の下流から幼虫2個体が確認された。昆虫類調査では確認されなかった。</li> <li>幼虫が確認されたことから、確認地点上流（竹本川）での繁殖が確認された（繁殖ランクA）。</li> </ul>			

出典) ※1「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫類」(平成27年、環境省)

※2「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

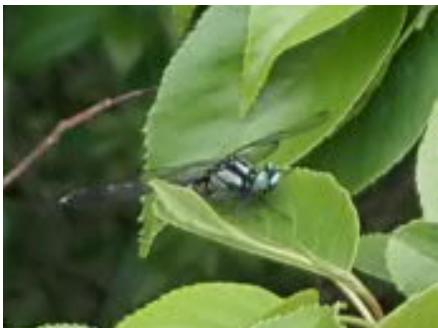
表 6.7.1-35(5) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（オジロサナエ）

分類	トンボ目 サナエトンボ科			
種名	オジロサナエ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外では本州、四国、九州に分布する。<sup>※1</sup></li> <li>・県内では小豆島、坂出市五色台、湊川、香東川、綾川、土器川水系に生息する。 ※1</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上流から中流域の河川に生息する。砂礫底で岩が点在する場所を好む。</li> <li>・幼虫は川を下って中、下流域で羽化する。下流域で羽化した成虫は、成熟するにつれ、中・上流域に戻ってくる。<sup>※1</sup></li> <li>・成虫は肉食性で、飛翔中に小型昆虫を捕食する。</li> <li>・幼虫は水中で生活し、砂礫底等に潜み、底質に生息する小動物を捕食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春から初夏にかけて繁殖し、雌は水中の砂礫や石の隙間に産卵する。</li> <li>・卵は水中で発生し、孵化した幼虫は数回の脱皮を経て羽化する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・底生動物調査では、秋季に沢の下流から幼虫2個体が確認された。昆虫類調査では確認されなかった。</li> <li>・幼虫が確認されたことから、確認地点上流（竹本川）での繁殖が確認された（繁殖ランク A）。</li> </ul>			

出典) ※1「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(6) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（タベサナエ）

分類	トンボ目 サナエトンボ科	
種名	タベサナエ	
選定根拠	①文化財保護法	
	②種の保存法	
	③香川県条例	
	④環境省 RL 準絶滅危惧	
	⑤香川県 RDB 準絶滅危惧	
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>静岡県、岐阜県、滋賀県、福井県の各県から西の本州、四国、九州及び一部の離島にやや局所的に分布する。※1</li> <li>県内では高松市、まんのう町に生息。※2</li> </ul>	
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>平地から丘陵地の樹林に囲まれた池沼や湿地、緩やかな流れに生息する。※1</li> <li>成虫は4~5月頃に発生する。※1</li> <li>成虫は肉食性で、飛翔中に小型昆虫を捕食する。</li> <li>幼虫は水中で生活し、泥底や水草の根元に潜み、小動物を捕食する。</li> </ul>	
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>成熟したオスは岸辺の植物等に静止して縄張りを形成する。メスは単独で水際の草地で打空産卵を行う。※1</li> <li>卵は水中で発生し、孵化した幼虫は数回の脱皮を経て羽化する。</li> </ul>	
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>昆虫類調査では、春季に新施設整備予定区域内の1か所の池で成虫1個体が確認された。底生動物調査では、秋季に新施設整備予定区域外の1か所の池で幼虫4個体が、夏季に新施設整備予定区域外の2か所の池で幼虫計13個体が、新施設整備予定区域内の1か所の池で幼虫1個体が確認された。</li> <li>幼虫の存在より、新施設整備予定区域内外の3か所の池で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。</li> </ul>	

出典) ※1 「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫類」(平成27年、環境省)

※2 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(7) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ヒメアカネ）

分類	トンボ目 トンボ科			
種名	ヒメアカネ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島から中国東北部に分布する。<sup>*1</sup></li> <li>県内では高松市、坂出市、まんのう町、三豊市財田町。<sup>*1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>丘陵地から低山地の湿地や耕作放棄された水田などに生息する。未熟個体は生息地から少し離れた樹林に潜む。<sup>*1</sup></li> <li>成虫は初夏から秋にかけて出現する。日中は水辺や周辺の草地で活動する。飛翔は比較的弱い。肉食性で、飛翔中に小型昆虫を捕食する。</li> <li>幼虫は水中で生活し、泥底に潜み、小動物を捕食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏から秋に繁殖し、雄は水辺で縄張りを形成する。雌は草の隙間の湿った土壤に産卵する。</li> <li>卵は水中で発生し、孵化した幼虫は数回の脱皮を経て羽化する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域内の2か所の湿地で成虫約8個体が確認された。</li> <li>確認された個体は縄張り行動などの繁殖行動を行っており、新施設整備予定区域内の湿地で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。</li> </ul>			

出典) \*1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(8) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（オオミズムシ）

分類	カメムシ目 ミズムシ科			
種名	オオミズムシ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内では善通寺市、綾川町に生息する。<sup>*1</sup></li> <li>県外では本州（近畿地方以西）、四国、九州に分布する。<sup>*1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>水生植物の繁茂する止水環境に生息する。日本産最大のミズムシ科。<sup>*1</sup></li> <li>生息地での個体数は多いが、突然一気に姿を消すことがある。<sup>*1</sup></li> <li>幼虫・成虫共に水中生活に適応する。夜行性の傾向があり、昼間は水底や水草の間に潜ることが多い。</li> <li>肉食性で、小型の水生昆虫や甲殻類、魚類の稚魚を捕食することもある。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>春から夏にかけて繁殖する。雌は水草や水中の植物組織に産卵する。</li> <li>卵は水中で発生し、孵化した幼虫は水中生活を送り、肉食性で小型の水生生物を捕食する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季に新施設整備予定区域内の1か所の池で成虫6個体が確認された。</li> <li>繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区内の1か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。</li> </ul>			

出典) \*1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(9) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ヒメタイコウチ）

分類	カメムシ目 タイコウチ科			
種名	ヒメタイコウチ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II 類		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>静岡、愛知、岐阜、三重、兵庫、奈良、和歌山、滋賀、香川に分布する。※1</li> <li>県内ではさぬき市、高松市、三木町、綾川町。※1</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>休耕田、湿地に生息する。体が浸かる程度の水深で生息し、ゴミムシやワラジムシ等陸上の生物を捕食する。※1</li> <li>夜行性で、昼間は泥中や落ち葉の下などに潜み、夜には盛んに行動する。翅が退化し飛翔能力を欠くことから、移動能力は低い。</li> <li>幼虫は、成虫と同様の環境に生息し、小動物を捕食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>春から初夏に繁殖し、湿った土中やコケなどに産卵する。</li> <li>幼虫は夏から秋に成虫になり、陸上の落葉下などで越冬する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池と 2 か所の湿地で成虫計 3 個体が、春季に新施設整備予定区域内の 2 か所の湿地で成虫計 10 個が、夏季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池及び 3 か所の湿地で幼虫計 13 個体が確認された。</li> <li>幼虫の存在より、新施設整備予定区域の湿地で繁殖が確認された（繁殖ランク A）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(10) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（キマダラセセリ）

分類	チョウ目 セセリチョウ科			
種名	キマダラセセリ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。<sup>※1</sup></li> <li>県内の低地の林縁から山地まで局地的に分布する。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の島嶼部、河川の林縁、ため池の土堤、山地の川沿いに個体数は多くないが生息している。<sup>※1</sup></li> <li>幼虫の食草はススキやチガヤなどのイネ科植物が豊富な草地を好む。</li> <li>成虫は初夏から秋にかけて出現する。成虫では花の蜜を吸う。</li> <li>幼虫は夜間に食草を摂食し、昼間は葉の間に潜む。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>西日本の暖地では通常年2化の生活史である。初夏と晩夏～初秋に繁殖ピークを持つ。雌はイネ科植物の葉に卵を産み付ける。</li> <li>孵化した幼虫は食草の葉を食べる。幼虫で越冬する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域外の開けた草地で成虫1個体が確認された。</li> <li>繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区外の草地で繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(11) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況  
(マルチビゲンゴロウ)

分類	コウチュウ目 ゲンゴロウ科		(画像なし)	
種名	マルチビゲンゴロウ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>本州、四国、九州に局所的に分布する。<sup>※1</sup></li> <li>県内では小豆島町、土庄町、東かがわ市、三木町、高松市、綾川町、善通寺市、丸亀市に分布する。<sup>※2</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>休耕田、湿地、池尻等の浅い水域に生息する。<sup>※2</sup></li> <li>幼虫・成虫とも水中で生活する。肉食で水生小動物を捕食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<p>(ゲンゴロウ科の一般的な生態)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産卵は水中で行われ、水草や落ち葉などに産み付けられる。</li> <li>幼虫は水中生活を行い、水中の小動物を捕食する。上陸して蛹化する。</li> <li>成虫は、飛翔性を持ち、交尾相手や産卵場所を探して分散する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>春季に新施設整備予定区域外の1か所の池で成虫5個体が確認された。</li> <li>繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区外の1か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。</li> </ul>			

出典) ※1 「レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫類」(平成27年、環境省)

※2 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

**表 6.7.1-35(12) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況  
(ミズスマシ属の一種)**

分類	コウチュウ目 ミズスマシ科		(画像なし)	
種名	ミズスマシ属の一種			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	コミズスマシ : 絶滅危惧 IB類 ヒメミズスマシ : 絶滅危惧 IB類 ミズスマシ : 絶滅危惧 II類		
	⑤香川県 RDB	コミズスマシ : 情報不足 ヒメミズスマシ : 絶滅危惧 II類 ミズスマシ : 準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒメミズスマシは、北海道、本州、四国、九州に分布する。<sup>※1</sup> 県内では、1967年に栗林公園における記録が残されている。直島における生息情報がある。 <sup>※2</sup></li> <li>コミズスマシは、北海道、本州、四国、九州、千島列島、サハリンに分布する。<sup>※1</sup> 県内では、1967年に栗林公園における記録が残されている。近年は、坂出市与島町与島の記録がある。<sup>※2</sup></li> <li>ミズスマシは、北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島に分布する。<sup>※1</sup> 県内では、白鳥町、大内町、高松市香南町、坂出市、などの記録があり、近年では観音寺市粟井町・丸亀市広島町、小豆島町神懸通において生息が確認されている。<sup>※2</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>平地から丘陵地の池沼、水田、河川の淀みに生息する。<sup>※1</sup> ヒメミズスマシは、とくに水生植物の豊富な環境に<sup>※1</sup>、ミズスマシは、とくに水のきれいな開けた水域に多い。<sup>※1</sup></li> <li>水面を群泳し、水面に落ちた小昆虫などを捕食する。驚くと水中に潜る。<sup>※1</sup></li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミズスマシの繁殖期は5~8月頃と考えられ、植物の茎などに産卵する。孵化した幼虫は水中の小動物を捕食して成長し、十分に成長すると上陸し水際に泥で繭を作り蛹化する。<sup>※1</sup></li> <li>その他の種の生活史の詳細は不明。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>初夏季に新施設整備予定区域外の1か所の池で成虫2個体が確認された。</li> <li>繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区外の1か所の池で繁殖している可能性がある(繁殖ランクB)。</li> </ul>			

出典) ※1「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫類」(平成27年、環境省)

※2「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

注) ミズスマシ属は目視による確認のみで、種の同定には至らなかった。コミズスマシ、ヒメミズスマシ、ミズスマシの可能性がある。コミズスマシは、環境省RDBの【EN】、香川県RDBの【DD】、ヒメミズスマシは、環境省RDBの【EN】、香川県RDBの【VU】、ミズスマシの場合、環境省RDBの【VU】、香川県RDBの【NT】に該当する。

表 6.7.1-35(13) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況  
(キイロコガシラミズムシ)

分類	コウチュウ目 コガシラミズムシ科			
種名	キイロコガシラミズムシ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL 絶滅危惧 II 類			
	⑤香川県 RDB			
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内では本州・四国・九州と八重山諸島の与那国島に分布する。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫・幼虫ともに水中で生活する。</li> <li>植生の乏しい環境でも確認されることがあるが、一般に水田や水生植物の多い湿地、池沼に生息する。<sup>※1</sup></li> <li>成虫は雑食性とされるが、飼育下では動物質のものをよく食べる。<sup>※1</sup></li> <li>幼虫はシャジクモ類に嗜みついて吸汁する。<sup>※1</sup></li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活史については詳細は不明である。<sup>※1</sup></li> <li>幼虫の餌であるシャジクモが生育する、底質が泥や砂で沈水植物が発達しやすい止水域や浅い水域で繁殖すると考えられる。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>春季に新施設整備予定区域外の1か所の池で成虫1個体が確認された。</li> <li>確認場所は水が濁り幼虫の餌となるシャジクモが生育していないなど本種の繁殖環境ではなかった。新施設整備予定区域周辺には繁殖に適した環境は確認されず、周辺生息地からの飛来と考えられる（繁殖ランクD）。</li> </ul>			

出典) ※1 「レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫類」(平成 27 年、環境省)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(14) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（スジヒラタガムシ）

分類	コウチュウ目 ガムシ科			
種名	スジヒラタガムシ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB			
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内では本州、四国、九州、南西諸島に、国外では朝鮮半島に分布する。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>丘陵地や山間部のため池や水田、湿地に生息する。<sup>※1</sup></li> <li>泥底で水草が繁茂した環境に多い。成虫・幼虫ともに水生で、成虫は水面近くや水底を活発に移動し、飛翔による移動分散性がある。</li> <li>食性は不明だが、ガムシ科の一般生態として、雑食性で、動物質（小型の小動物やその死骸）や植物質を摂取する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>メスは腹部に卵を付着させて保護する。</li> <li>幼虫の食性は不明だが、ガムシ科の一般生態として、肉食である。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域内の 1 か所の湿地で成虫計 1 個体が、春季に新施設整備予定区域外の 2 か所の池で成虫計 6 個が、夏季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池及び新施設整備予定区域外の 2 か所の池で成虫計 4 個体が確認された。</li> <li>繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区内の 1 か所の池及び新施設整備予定区内の 3 か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランク B）。</li> </ul>			

出典) ※1 「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫類」(平成27年、環境省)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(15) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ヘイケボタル）

分類	コウチュウ目 ホタル科			
種名	ヘイケボタル			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道、本州、四国、九州、東シベリア、韓国に分布する。<sup>※1</sup></li> <li>県内では低地の水田地帯に広く分布する。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>水田や湿原などの止水域に多いが、水路や小川、遊水池などにも生息する。</li> <li>成虫は主に 6~8 月に発生する。成虫の寿命は極めて短く、水分は摂取するが、餌は食べない。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖行動は夜間にを行い、オスは飛翔しながら淡い点滅光を放ち求愛する。</li> <li>交尾後、メスは水辺の苔や草の根元に 50~100 個程度の卵を産む。</li> <li>幼虫は水生でモノアラガイなどを食べる肉食性である。<sup>※1</sup></li> <li>幼虫で越冬し、成長した幼虫は上陸すると、土中で蛹化する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季に新施設整備予定区域外の 1 か所の池で成虫 1 個体が確認された。</li> <li>繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区外の 1 か所の池で繁殖している可能性がある（繁殖ランク B）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」(令和 3 年、香川県)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(16) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ゲンジボタル）

分類	コウチュウ目 ホタル科			
種名	ゲンジボタル			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB			
	⑥注目種	注目		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本固有種であり、本州・四国・九州に広く分布する。</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>流れの緩やかな河川や水路に生息する。</li> <li>成虫は主に5~6月に発生する。成虫の寿命は極めて短く、水分は摂取するが、餌は食べない。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖行動は夜間に行い、オスは飛翔しながら点滅光を放ち求愛する。</li> <li>交尾後、メスは水際の湿った土や草の根元に数百個程度の卵を産む。</li> <li>幼虫は水生で主にカワニナを食べる肉食性である。</li> <li>幼虫で越冬し、成長した幼虫は上陸すると、土中で蛹化する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>初夏のゲンジボタル調査では、沢の下流で成虫1個体が確認された。底生動物調査では、冬季に沢の下流で幼虫2個体が、夏季に新施設整備予定区域外の池で幼虫3個体が確認された。</li> <li>幼虫が確認されたことから、新施設整備予定区域下流の沢及び新施設整備予定区域外の1か所の池で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。</li> </ul>			

注) 生息情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(17) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（トゲアリ）

分類	ハチ目 アリ科			
種名	トゲアリ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	絶滅危惧 II類		
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II類		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>本州から九州の日本本土に生息する。国外では中国、台湾、朝鮮半島に分布する。<sup>※1</sup></li> <li>県内では小豆島、東かがわ市引田、高松市、三木町、琴平町、三豊市。<sup>※2</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>広葉樹林を好む。山地の森林にも生息するが、低山地の里山に特に多い。 <sup>※1</sup></li> <li>小型の昆虫を狩ったり、アブラムシなどの甘露を主な餌とする。 <sup>※1</sup></li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会寄生種で、脱翅メスがクロオオアリやムネアカオオアリの巣に侵入し、寄主の女王を殺し、自分が女王に成り代わり、自分の子供を寄主のアリに育てさせる。 <sup>※1</sup></li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域外の樹林で成虫1個体が確認された。</li> <li>本種の行動範囲の狭さより、新施設整備予定区域内外の樹林で繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。</li> </ul>			

出典) ※1 「レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫類」(平成27年、環境省)  
「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

表 6.7.1-35(18) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ヤマトアシナガバチ）

分類	ハチ目 スズメバチ科			
種名	ヤマトアシナガバチ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	情報不足		
	⑤香川県 RDB			
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布し、国外では朝鮮半島、中国北東部に分布する。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>平地、低山地に生息する。<sup>※1</sup></li> <li>社会性昆虫であり、女王と働きバチが役割分担して生活する。</li> <li>昼行性で、成虫は花の蜜や樹液を摂取する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>草本の葉裏や樹木の細枝、時には人家の軒下、壁にも営巣する。<sup>※1</sup></li> <li>春に越冬した女王が単独で巣作りを行う。初期は女王が採餌・育児を行い、働きバチが羽化すると役割分担が進む。</li> <li>幼虫には狩った昆虫（チョウ目の幼虫など）を肉団子にして与える。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季に新施設整備予定区域外の樹林で成虫1個体が確認された。</li> <li>繁殖期に繁殖可能な環境で確認されたことから、新施設整備予定区域内外の草地などで繁殖している可能性がある（繁殖ランクB）。</li> </ul>			

出典) ※1 「レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫類」(平成 27 年、環境省)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-35(19) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（モンスズメバチ）

分類	ハチ目 スズメバチ科			
種名	モンスズメバチ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	情報不足		
	⑤香川県 RDB			
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道、本州、佐渡島、四国、九州まで広く分布する日本固有亜種。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>山林や里山、農地周辺など、比較的自然度の高い環境に多い。</li> <li>成虫は主に樹液や果汁を摂取する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹洞、天井裏、壁間、戸袋などの閉鎖的な場所に営巣する。<sup>※1</sup></li> <li>春に越冬した女王が単独で巣作りを行う。初期は女王が採餌・育児を行い、働きバチが羽化すると役割分担が進む。</li> <li>幼虫には狩った昆虫（セミやバッタなど）を肉団子にして与える。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域外の2か所の林縁で巣1個及び成虫約10個体が、春季に新施設整備予定区域内の1か所の林縁及び新施設整備予定区域外の1か所の林縁で成虫計2個体が、夏季に新施設整備予定区域外の4か所の林縁や草地で巣計2個及び成虫計10個体が確認された。</li> <li>複数個所の巣が確認されたことから、新施設整備予定区域周辺で繁殖が確認された（繁殖ランクA）。</li> </ul>			

出典) ※1 「レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物 昆虫類」(平成 27 年、環境省)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

## ⑥ 陸産貝類

現地調査で確認した陸産貝類の重要な種等を表 6.7.1-36に示す。1目1科2種の重要な種等が確認された。重要な種等の分布・生息の状況・生息環境の状況を表 6.7.1-37に示す。

なお、重要な種等の保全の観点から、確認位置等は掲載しない。

**表 6.7.1-36 確認された重要な陸産貝類一覧**

No.	目名 科名	種名	確認 時期		重要な種等選定基準					確認状況
			秋季	初 夏 季	①	②	③	④	⑤	
1	マイマイ目 ベッコウマイマイ科	ウメムラシタラガイ	○	○				NT		生貝（幼貝）、 死貝（成貝、幼貝）
2	マイマイ目 ベッコウマイマイ科	オオウエキビ	○					DD		生貝（成貝）、 死貝（成貝、幼貝）
計	1 目 1 科	2 種	2 種	1 種	0 種	0 種	0 種	2 種	0 種	-

注1) 分類・配列・種名については、主に「日本野生生物目録－本邦野生動植物の種の現状－無脊椎動物編Ⅲ」（平成10年、環境庁編）に従った。

注2) 重要な種等の選定基準を前掲表 6.7.1-24に示す。

**表 6.7.1-37(1) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況  
(ウメムラシタラガイ)**

分類	マイマイ目 ベッコウマイマイ科	
種名	ウメムラシタラガイ	
選定根拠	①文化財保護法	
	②種の保存法	
	③香川県条例	
	④環境省 RL 準絶滅危惧	
	⑤香川県 RDB	
分布状況	・「平成 14 年度生態系多様性地域調査」（環境省）によると、本州の関東地方以西、四国、九州及び周辺の島嶼部、沖縄本島に分布する。	
生息環境・生態	・本種の詳しい生態はよく分かっていない。ベッコウマイマイ科の一般的な生態は以下の通り。 ・主に落葉広葉樹林や混交林の腐植層に生息する陸産貝類である。 ・夜行性で、昼間は落葉や石の下に潜む。 ・食性は腐植、植物片などを摂取する。	
繁殖生態	・詳しい繁殖生態は不明であるが、移動性は低く、成貝や幼貝の生息環境と産卵環境は同じであると考えられる。	
生息状況・生息環境	・秋季に新施設整備予定区域内の 1 か所の湿地で幼貝及び成貝計 8 個体（死貝を含む）が、初夏季に新施設整備予定区域内の 1 か所の湿地及び新施設整備予定区域外の 1 か所の植栽地で幼貝計 4 個体（死貝を含む）が確認された。 ・幼貝が確認され、移動性に乏しく繁殖環境に一生留まることから、新施設整備予定区域内外の樹林や草地で繁殖している（繁殖ランク A）。	

注) 生態情報については、様々な文献等を参考にベッコウマイマイ科の一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-37(2) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（オオウエキビ）

分類	マイマイ目 ベッコウマイマイ科			
種名	オオウエキビ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	情報不足		
	⑤香川県 RDB			
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「平成 14 年度生態系多様性地域調査」（環境省）によると、本州の東北地方南部以西、四国、九州に分布する。</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種の詳しい生態はよく分かっていない。ベッコウマイマイ科の一般的な生態は以下の通り。</li> <li>主に落葉広葉樹林や混交林の腐植層に生息する陸産貝類である。</li> <li>夜行性で、昼間は落葉や石の下に潜む。</li> <li>食性は腐植、植物片などを摂取する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳しい繁殖生態は不明であるが、移動性は低く、成貝や幼貝の生息環境と産卵環境は同じであると考えられる。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域内の 1 か所の湿地及び新施設整備予定区域外の 1 か所の植栽地で成貝及び幼貝計 4 個体（死貝を含む）が確認された。</li> <li>幼貝が確認され、移動性に乏しく繁殖環境に一生留まることから、新施設整備予定区域内外の樹林や草地で繁殖している（繁殖ランク A）。</li> </ul>			

注) 生息情報については、様々な文献等を参考にベッコウマイマイ科の一般的な生態を記載した。

## ⑦ 魚類

現地調査で確認した魚類の重要な種等を表 6.7.1-38に示す。2目2科2種の重要な種等が確認された。重要な種等の分布・生息の状況・生息環境の状況を表 6.7.1-39に示す。

なお、重要な種等の保全の観点から、確認位置等は掲載しない。

**表 6.7.1-38 確認された重要な魚類一覧**

No	目名・科名	種名	確認時期								重要な種等選定基準				
			秋季		冬季		春季		夏季		①	②	③	④	⑤
			沢	池	沢	池	沢	池	沢	池					
1	ダツ目 メダカ科	ミナミメダカ		○		○				○				VU	VU
2	スズキ目 ハゼ科	シマヒレヨシノボリ			○									NT	DD
計	2目2科	2種	0 種	1 種	1 種	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種	0 種	0 種	2 種	2 種

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) 重要な種等の選定基準を前掲表 6.7.1-24に示す。

**表 6.7.1-39(1) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ミナミメダカ）**

分類	ダツ目 メダカ科	
種名	ミナミメダカ	
選定根拠	①文化財保護法	
	②種の保存法	
	③香川県条例	
	④環境省 RL	絶滅危惧 II類
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II類
分布状況	・国内では、京都府以西の日本海側では、岩手県以南の太平洋側の、本州、四国、九州、琉球列島に分布する。 <sup>※1</sup>	
生息環境・生態	・平野部の河川、池沼、水田、用水路、塩性湿地等、止水域あるいは流れが緩やかで、水草が繁茂する場所を好む。群れ又は群がりを作り、水面直下を遊泳する。 <sup>※1</sup> ・昼行性で、プランクトン植物やプランクトン動物、落下昆虫等を食べる雑食性である。 <sup>※1</sup>	
繁殖生態	・繁殖期は春から夏にかけての高水温期。 <sup>※1</sup> ・毎日 10~30 個の卵を産み、卵には付着糸があり、メスがしばらく塊のまま腹に付けて保護するが、やがて水草等に何度も分けて付着させる。 <sup>※1</sup> ・多くは未成熟のまま越冬し、翌年の 4 月末に成熟する。 <sup>※1</sup>	
生息状況・生息環境	・秋季、冬季、夏季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池で計 12 個体が確認された。 ・確認された池は流入する水路がなく閉鎖されていることから、新施設整備予定区域内の 1 か所の池で繁殖している（繁殖ランク A）。	

出典) ※1「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 汽水・淡水魚類」(平成27年、環境省)

**表 6.7.1-39(2) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況  
(シマヒレヨシノボリ)**

分類	スズキ目 ハゼ科			
種名	シマヒレヨシノボリ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	情報不足		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然分布域は、瀬戸内海沿岸地域の中・東部から大阪湾を経て紀伊水道に至る沿岸地域と推察される。※1</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>池や沼やそれにつながる水路、河川では中～下流域のワンド、堰堤上流の溜まり、河川敷にある池、入り江状の河岸などに生息し、泥底を好む。※1</li> <li>主に川底で生活し、雑食性で、付着藻類やデトリタス、小型の水生昆虫などを摂食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>一生を池沼や河川の止水域で過ごす止水性で淡水性のヨシノボリで、孵化した仔魚も止水域で成長し、海に降ることはない。※1</li> <li>春から初夏に繁殖する。石の裏面や隙間に作った産卵床に産卵し、孵化まで雄が卵を保護する。</li> <li>孵化後の稚魚は一時的に浮遊生活を送り、その後底生生活に移行する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬季に新施設整備予定区域下流の沢で成魚 1 個体が確認された。</li> <li>幼魚等は確認されなかったが、確認地点の下流には遡上困難な堰堤で堰き止めた止水域があることから、確認地点付近で繁殖している（繁殖ランク A）。</li> </ul>			

出典) ※1「レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物 汽水・淡水魚類」(平成27年、環境省)

## ⑧ 底生動物（昆虫類を除く）

現地調査で確認した底生動物（昆虫類でとりまとめた水生昆虫類を除く）の重要な種を表 6.7.1-40に示す。4目4科5種の重要な種が確認された。重要な種等の分布・生息の状況・生息環境の状況を表 6.7.1-41に示す。

なお、重要な種等の保全の観点から、確認位置等は掲載しない。

**表 6.7.1-40 確認された重要な底生動物（昆虫類を除く）一覧**

No .	目名 科名	種名	確認時期								重要な種等選定根拠					
			秋季		冬季		春季		夏季		①	②	③	④	⑤	
			沢	池	沢	池	沢	池	沢	池						
1	新生腹足目 カワニナ科	カワニナ属の一種							○	○	○					※ 注3)
2	汎有肺目 ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ		○							○				DD	
3	汎有肺目 ヒラマキガイ科	ヒラマキガイモドキ		○		○		○			○				NT	
4	マルスダレガイ目 ドブシジミ科	ドブシジミ		○		○		○			○				NT	
5	エビ目 サワガニ科	サワガニ	○	○	○		○	○	○	○	○				NT	
計	4 目 4 科	5 種	1 種	4 種	1 種	2 種	1 種	4 種	2 種	5 種	0 種	0 種	0 種	2 種	3 種	

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) 重要な種等の選定基準を前掲表 6.7.1-24に示す。

注3) カワニナ属の一種は、殻に縦肋を有する個体であることから、チリメンカワニナの可能性がある。チリメンカワニナの場合は香川県RDBの【DD】に該当する。

表 6.7.1-41(1) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（カワニナ属の一種）

分類	新生腹足目 カワニナ科	
種名	カワニナ属の一種 (チリメンカワニナの可能性あり)	
選定根拠	①文化財保護法	
	②種の保存法	
	③香川県条例	
	④環境省 RL	
	⑤香川県 RDB チリメンカワニナ：情報不足	
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧来のチリメンカワニナは、北海道から西日本にかけての河川や湖沼に分布し<sup>※1</sup>、県内では坂出市王越町で生息が確認される。<sup>※1</sup> 変異が著しい種のため、他の地域でもカワニナと混同している可能性がある。<sup>※1</sup></li> <li>旧来のカワニナにもチリメンカワニナと同様の縦肋が発現するものもあり、識別が難しい。近年の研究では、本州の瀬戸内海沿岸や山陰地方、四国、九州、南西諸島に生息している種は、カワニナとチリメンカワニナとの区別が無くカワニナ種群 (<i>Semisulcospira L2</i>) とされる。</li> </ul>	
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川や浅い池の泥底や転石上を這っている。<sup>※1</sup></li> <li>流れのあるきれいな水域から、流れの緩やかな場所まで幅広く分布する。底質が砂や泥、石の多い場所で多く見られる。</li> <li>雑食性で、主に水底の有機物、藻類、微細な動植物の死骸などを摂取する。夜行性傾向があり、夜間に活発に移動して餌を探す。</li> </ul>	
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>卵胎生で、雌は体内で受精卵を孵化させ、稚貝の状態で水中に放出する。一度に数十個の稚貝を産出する。</li> <li>稚貝は親と同じように水底で生活する。</li> </ul>	
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>春季に新施設整備予定区域外の1か所の池で成貝 3 個体が、夏季に新施設整備予定区域下流の 1 か所の沢及び新施設整備予定区域外の 1 か所の池で成貝計 4 個体が確認された。</li> <li>本種は移動性が乏しく繁殖水域で一生を過ごすことや確認個所は流域の源流に近いことから、確認地点で繁殖している（繁殖ランク A）。</li> </ul>	

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年、香川県）

注1) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

注2) 裂に縦肋を有する個体であることから、チリメンカワニナの可能性がある。チリメンカワニナの場合は香川県RDBの【DD】に該当する。

表 6.7.1-41(2) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ヒラマキミズマイマイ）

分類	汎有肺目 ヒラマキガイ科			
種名	ヒラマキミズマイマイ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	情報不足		
	⑤香川県 RDB			
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「平成 14 年度生態系多様性地域調査」（環境省）によると、北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>湖沼、ため池、水田、湿地などの止水域に生息し、水草が繁茂し、底質が泥や砂である環境に多い。</li> <li>ヒラマキガイ科の一般的な生態として、水生植物や有機物、藻類などを摂食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種の繁殖生態の詳細は不明である。ヒラマキガイ科の一般的な生態として、雌雄同体で、水草や石、水底の落ち葉などにゼリー状の卵塊を産み付ける。幼貝は水底で生活する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池で成貝 1 個体が、夏季に新施設整備予定区域内の 1 か所の池及び新施設整備予定区域外の 1 か所の池で成貝計 40 個体が確認された。</li> <li>確認された池は流入出する水路がなく閉鎖されていることから、新施設整備予定区域内の 1 か所の池で繁殖している（繁殖ランク A）。</li> </ul>			

注) 生息情報については、様々な文献等を参考にヒラマキガイ科の一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-41(3) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ヒラマキガイモドキ）

分類	汎有肺目 ヒラマキガイ科			
種名	ヒラマキガイモドキ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB			
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「平成 14 年度生態系多様性地域調査」（環境省）によると、北海道、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>湖沼、ため池、水田、湿地などの止水域に生息し、水草が繁茂し、底質が泥や砂である環境に多い。</li> <li>ヒラマキガイ科の一般的な生態として、水生植物や有機物、藻類などを摂食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種の繁殖生態の詳細は不明である。ヒラマキガイ科の一般的な生態として、雌雄同体で、水草や石、水底の落ち葉などにゼリー状の卵塊を産み付ける。幼貝は水底で生活する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域内の 3 か所の池で成貝計 193 個体が、冬季に新施設整備予定区域内の 3 か所の池で成貝計 71 個体が、春季に新施設整備予定区域内の 3 か所の池で成貝計 155 個体が、夏季に新施設整備予定区域内の 3 か所の池で成貝計 171 個体が確認された。</li> <li>確認された池は流入出する水路がなく閉鎖されていることから、新施設整備予定区域内の 3 か所の池で繁殖している（繁殖ランク A）。</li> </ul>			

注) 生息情報については、様々な文献等を参考にヒラマキガイ科の一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-41(4) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（ドブシジミ）

分類	マルスダレガイ目 ドブシジミ科			
種名	ドブシジミ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国的に広く分布しているが、地域によって変異が大きく、いろいろなタイプに分類される。県内では全域の平野部に分布する。<sup>※1</sup></li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>平野部田園地帯の池や水路の止水域の浅い泥底に生息している。<sup>※1</sup></li> <li>濾過摂食を行う淡水二枚貝であり、水中の微細藻類や有機粒子プランクトンを主に摂取する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>本種の繁殖生態の詳細は不明である。卵胎生で、雌は体内で受精卵を孵化させ、稚貝の状態で水中に放出する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域内の3か所の池で成貝計12個体が、冬季に新施設整備予定区域内の3か所の池及び新施設整備予定区域外の1か所の池で成貝計17個体が、春季に新施設整備予定区域内の3か所の池及び新施設整備予定区域外の1か所の池で成貝計220個体が、夏季に新施設整備予定区域内の3か所の池及び新施設整備予定区域外の2か所の池で成貝計55個体が確認された。</li> <li>確認された池は流入入する水路がなく閉鎖されていることから、新施設整備予定区域内の3か所の池及び新施設整備予定区域外の2か所の池で繁殖している（繁殖ランクA）。</li> </ul>			

出典) ※1「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.7.1-41(5) 重要な種等の分布・生息・生息環境の状況（サワガニ）

分類	エビ目 サワガニ科		 確認個体	
種名	サワガニ			
選定根拠	①文化財保護法			
	②種の保存法			
	③香川県条例			
	④環境省 RL			
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本固有種であり、本州・四国・九州に広く分布する。</li> <li>県内では、全域の山地渓流に生息する。※1</li> </ul>			
生息環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>純淡水性のカニで、水のきれいな山地渓流の流れの緩やかな場所を好む。夜間に摂食活動など活発に活動する。※1</li> <li>雑食性で、落葉や藻類、微小な小動物の死骸などを摂食する。</li> </ul>			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に春から初夏に繁殖し、雌は腹部に卵を抱え、孵化まで保護する。</li> </ul>			
生息状況・生息環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季に新施設整備予定区域外の1か所の池及び新施設整備予定区域下流の2か所の沢で計32個体（成体及び幼体）が、冬季に新施設整備予定区域下流の2か所の沢で計12個体（成体及び幼体）が、春季に新施設整備予定区域外の2か所の池及び新施設整備予定区域下流の2か所の沢で計11個体（成体及び幼体）が、夏季に新施設整備予定区域外の1か所の池及び新施設整備予定区域下流の2か所の沢で計10個体（成体及び幼体）が確認された。</li> <li>本種は移動性が乏しく繁殖水域で一生を過ごすことや確認個所は流域の源流に近いことから、確認地点で繁殖している（繁殖ランクA）。</li> </ul>			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」(令和3年、香川県)

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。